

東京市日本橋區通二丁目

日華生命保險株式會社

社 長 川崎 甲子男

取締役支配人 高橋 彌太郎

保險契約高 四億四千萬圓
加入件數 六拾九萬二千餘件

第一徵兵保險株式會社

東京市京橋區西銀座三丁目

生命保險の趨向

我が國に於ける生命保險の契約は既に飽和状態に達して、新契約募集も漸く行詰つて來たかの様な言葉は二三年前から聞く所であつた。そして新契約制限の必要が心ある人々に依つて主張されるに至つてゐる。事實、近年の募集戦線を觀察すると、新契約の募集と言ふよりは寧ろ大會社の小會社に對する契約争奪に終始してゐるの觀が顯著である。即ち新契約の成立と云ふよりも其の成立の裏面を窺へば、舊契約の掠奪、乗替が多く、従つて解約失効の簇出も亦免れない。弱小會社としては解約の防止に逐はれ、これが補充のために契約を作成する状況にある一面、小會社から大會社への契約移動は數年來愈々顯著となりこれを八年度の新契約高に就て見るも、五大生命の十億五千二百十二萬八千圓なるに對し其他の二十七社合計は九億六百二十八萬三千圓に過ぎず、五大會社のそれは八年度新契約總額十九億五千八百四十一萬一千圓の五割三分強を占むる實情にある。

斯くて八年度の生保界は、政府のインフレ政策の進行に依る全般的景氣の上昇と、證券界活況の生保資産への浸潤、多數弱體會社の整理統制とが原因となつて、俄然斯業全面に活況を呈し、殆んど近年稀なる好成绩を收穫した。而して東海、國光、蓬萊、中央の四相互會社は八年十一月末日を以つて昭和生命（日本醫師改稱）に包括移轉し、十一月二十二日には壽生命の愛國生命への包括移轉、更に十二月十九日には大安生命が片倉生命に包括移轉せるため、生命保險會社の數は徴兵保險四社を加へて三十九社から三十二社に減少したのである。

而して契約狀況を検するに、新契約は未曾有の好績を挙げ、解約は著しく減少を告げ、ために純増加に至つては前記包括移轉契約を併せて前年度の倍以上に相當する莫大な數字を記録し、年末現在契約高は七年末の八十億圓臺から一躍して九十六億一千三百十八萬二千圓と言ふ將に百億に垂んとする尨大なる金額を示すに至つた。しかもこれを會社別に検討するも純増加を出し得なかつた會社は前年度の十七社なりしに對し、八年度は僅かに四社を算するに過ぎない。

今これを數字に依つて詳解すれば、新契約は前年より三億三千萬圓の増加に當り、年始年末平均契約に對する比率は二割一分六厘四毛で前年より二分四厘七毛の向上を示した。其他の増加契約は包括移轉契約等を含めて前年より九千九百萬圓の増加であり、解約は前年より一億八千七百萬圓の減少で對平均契約の率に於て一割四厘一毛と云ふ近年稀な低率である。されば結局純増加は十一億二千三百萬圓を收め、前年より六億二千二百萬圓を増收して、年末現在契約高は九十六億一千三百萬圓に達して居り、此の状態を以つて推移するならば、本年度末には容易に百億を突破するであらう。

次に八年度末に於ける生保會社の總資産は二十億五千五百萬圓にして、これより未拂込株金及拂込基金を差引いた正味資産は、前年度末より一億七千六百萬圓を増加して二十億三千五百萬圓を計上した。内責任準備金は十七億五千七百萬圓に達し、正味資産に對比すれば八割六分三厘五毛に當る、又運用資産は十九億九千四百萬圓に及び、これが正味資産に對する比率は九割八分となつた。處で投資分布状態を前年度と比較して見るに、貸付投資割合の減少最も著しく、其の反面有價證券及預金の増加が目立つて來た。即ち有價證券

欠

MISSING

三百四十件、^{三十一億}十七億七千八百四十九萬三千圓に達し、我國の保險會社中最大の會社である當社が日本一を標榜するのは、この意味に於て正に然りである。この八年度末契約高十二億七千八百四十九萬三千圓は七年度末に比し一億五千二百七十萬八千圓の純増加であつてその年始年末中數契約に對する純増加率は一割二分七厘に當る。これを前年度の純増加率五分一厘七毛に比すれば著しき改善であり、帝國の一割四分五厘に對照すれば稍低い。

八年度の新契約高は二億六千三百九十一萬三千圓であつて、對中數契約の新契約率二割一分九厘五毛に當り、一方失効解約は九千七百五十四萬圓にして對中數契約の失効解約率八分一厘一毛を示してゐる。これを前年度の失効解約率一割九厘二毛に比すれば改善の跡顯著であるが、新契約に對する失効解約率三割六分九厘六毛を明治の二割四分八厘九毛、第一の二割九分八厘三毛、帝國の三割三分六厘六毛等に對照すれば比較的高く、千代田の四割三分四厘三毛に比すれば稍々良好である。従つて日本一の會社としては稍々失効解約が多い嫌ひがある。

次に八年度に於て當社は一千一百三十三萬一千圓の事業費を使った。而して收入保險料

は四千九百四萬六千圓であるから收入保険料百圓に對し二十三圓十錢を要した。この程度なれば勿論普通であるが、五大生命の一つとしてこれを檢すれば、第一の十三圓八十八錢千代田の十八圓八十九錢、明治の十八圓八十七錢、帝國の二十圓九十三錢よりは高い方である。然し年末現在契約に對する平均保険金一千三百二十七圓、對中數契約千圓の平均保険料四十圓八十錢なる點から契約件數多き實情に想倒すれば寧ろ高きは當然であらう。

當社の八年度末總資産は三億二百四十七萬九千圓で七年度より三千百三十八萬九千圓の増加を示した。資産中の運用資産内譯は銀行預金が九百三十四萬四千圓、金錢信託が二百六十九萬六千圓、貸付金が九千八百六十五萬八千圓、有價證券が一億七千五百二十萬七千圓不動産が一千三百七十萬八千圓であつて、運用資産比率は、預貯金が四分、有價證券が五割八分五厘、貸付金が三割二分九厘、不動産が四分六厘の割合である。銀行預金は山口銀行を主として居り、貸付の内容は擔保物件の嚴選、評價格との含み充分であり、有價證券の評價は至極内輪に見積られ資産内容は頗る堅實である。この事は一面當社の基礎を鞏固ならしむる所以ではあるが、徒らに評價を低くしてその利益を減殺するのは、契約者の

立場から見てどんなものか、一考を要する點である。尙ほ當社の八年度資産利廻は諸利息收入一千七百七十一萬八千圓で、平均資産利廻六分三厘八毛、平均運用利廻六分四厘八毛と頗る優良な好利廻を收めた。以つて資産運用の確實巧妙さを窺ふに足る。

而して八年度の總利益金は一千三百七十二萬二千圓に達し、内五百五十五萬五千圓を契約者利益配當準備金に繰入れ、差引利益金八百十六萬六千圓を計上した。斯くて更に百六十七萬圓を契約者追加配當準備金に分配し、株主配當は特別配當を合して二百二十五萬圓（七割五分）を行つたのである。この外當社は日本生命濟生會に五十萬圓、皇太子殿下御生誕奉祝記念國防寄附金として百萬圓、生保協會寄附金として十萬圓、癌研究費外四口寄附金として五萬圓を夫々寄附して、着々生保會社の面目を發揮しつゝある。

△責任準備金二四九、八一五、〇三三圓、△契約者配當準備金二五、三七二、一一三圓、
△支拂備金二、七八四、六〇〇圓、

創立 明治二十二年七月

資本金 三百萬圓（十二萬株全額拂込済）

保險・銀行・信託・早解り

現重役 會長山口吉郎兵衛、社長弘世助太郎、常務成瀬達、中松龜太郎、
取締役 岸田奎、阿部彦太郎、片岡安、肥塚源次郎、

監査役 佐々木駒之助、伊東紀兵衛、田中弟稻

△支店所在地 大阪、京都、金澤、廣島、札幌、臺北、東京、名古屋、仙臺、福岡、朝
鮮京城、

△保險種類 利益配當附終身保險、同養老保險、毎年利益配當附終身保險、同養老保險

第一生命

(東京市京橋)

當社は我邦生命保險會社相互組織の嚆矢である。他の相互會社は皆當社に其の範を求め
て設立されたものである。現社長矢野恒太氏は日本生命の診査醫より共濟生命の支配人と
なり、更に獨逸の相互會社ゴータ社に就て實地研究し、歸朝後農商務省保險課長時代まで
熱心に相互組織の研究を遂げ、明治卅五年九月官を辭すると同時に岡野敬次郎氏の援助を
得て池田謙三、森村市左衛門、原六郎、大橋新太郎、服部金太郎の諸氏を説き遂に當社を
設立した。基金二十萬圓四分の一釐出を以てし社長は柳澤保惠伯、矢野氏は專務取締役と
して專任經營の衝に當り、大正四年七月柳澤伯辭任に際し矢野氏社長に就任して今日に及
ぶ。而して當社の創立と發達とは我國の保險業史に於て重要な地位を占むべく、其の發
展も亦真に目醒しい。「最良の會社」は當社のモットーとする所であるが、眞に最良の會社
のみに相違なく且つ最大となるべき所以でもある。

さて當社の八年度末契約高は十億四千二百三十三萬三千圓で、前年度に比して一億三千五百十三萬四千圓の純増加である。これを年始年末中數契約に對比すると正しく一割二分五厘七毛の純増加率に當る。五大會社の一で同じく相互組織なる千代田の純増加率九分九厘四毛を遙かに抜いて日本、明治、帝國と拮抗してゐる。八年度の新契約高は二億一千百三十六萬八千圓で、中數契約に對する新契約率は一割九分六厘七毛を示し、明治の一割八分七厘八毛に勝り、帝國の二割四分一厘五毛、日本の二割一分九厘五毛、千代田の一割九分六厘九毛に遜色を感じる。一方失効解約は六千三百四萬九千圓で中數契約に對する失効解約率は五分八厘七毛に當り、明治の四分六厘八毛に及ばぬが、千代田の八分五厘五毛帝國の八分一厘三毛、日本の八分一厘一毛に勝つてゐる。蓋し當社は解約防止につき何等謀る所なしと云ふ。眞に然りとしてこの程度の失効解約に止まりたりとすれば、各社擧つて失効解約の防止に努力せるに對し極めて良好の成績と云はねばならぬ。然かもこれ畢竟當社契約實質の良好なるを物語るものである。尙ほ當社八年度の死亡及満期は九百四十六萬圓にして復活其他は二百九十三萬五千圓であり、年末現在契約に對する平均保險金は二

千四百八圓、中數契約に對する平均保險料は三十八圓九十五錢である。

殊に當社は事業費を節約して居ること我が國保險會社中隨一だ。即ち八年度に於ては收入保險料四千四百四十三萬七千圓に對する事業費五百七十五萬一千圓であるから、收入保險料百圓當り事業費は僅かに十三圓八十八錢である。

次に當社の八年度末資産は合計一億七千五百九十五萬二千圓に達し、契約者のために負擔する純負債とも見るべきものは、この内責任準備金、支拂備金、社員配當金を合して一億六千四十一萬三千餘圓に過ぎず、尙ほ責任準備金を當社の如く純保險料式とせず、他の多數會社の如く所謂チルメル式を以てするときは、當社の純負債は一億四千八百七十四萬餘圓に留まる勘定となり、これを當社の總資産に對照するならば極めて安全なる當社の資産状態を發見するのである。この利息収入は九百九十三萬一千圓、平均資産利廻は六分三厘二毛、平均運用利廻は六分三厘七毛の高率を示してゐる。運用資産は有價證券投資が中心であつて、總額の七割一分二厘を示し貸付金の二割、預金の五分四厘、不動産の二分五厘これに次いで低金利時代の今日適切有利なる運用方針を示現してゐる。

従つて事業上の剩餘金も一千四百三萬圓に及び、これから財産評價損を控除した剩餘金一千百六十六萬一千圓は前年度より三百萬圓の増加である、其處でこの内一千五十一萬一千餘圓を契約者利益配當準備金に繰入れ四分五厘累加配當の基礎を益々鞏固ならしむるに至つた。斯くて八年度末の契約者配當準備金の合計は一千四百八十六萬一千餘圓責任準備金は一億四千三百五十萬五千餘圓、支拂備金は二百四萬六千餘圓を算したのである。

創立 明治三十五年九月

基金 二十萬圓（一千口、金額償却済）△現重役 社長矢野恒太、取締役大橋新太郎
森村市左衛門、今村繁三、同支配人石坂泰三、監査役伊藤萬太郎、濱口吉兵衛、小林一三
△支部所在地 札幌、青森、秋田、山形、仙臺、福島、新潟、前橋、水戸、千葉、浦和
松本、東京、横濱、静岡、名古屋、岐阜、富山、金澤、福井、大津、津、京都、大阪、
奈良、和歌山、神戸、岡山、松江、廣島、下關、高松、松山、福岡、長崎、大分、熊本
鹿兒島、臺北、京城、大連、新京
△保險種類、利益配當附養老保險

千代田生命

（東京市京橋）

當社は明治三十七年三月の創立、相互組織の會社で元慶應義塾長たりし門野幾之進氏を社長とし三田系の學閥財閥を背景とせること、日清生命の稻門系を地盤とせるに酷似してゐる。而して其の進歩力の素晴らしき點は多くの先輩會社を抜いて契約高第三位にあることを以てしても諒知されるのである。

創立順から云へば現存三十二生保會社中、第十六番目であるが、八年末に於ける契約高は十九億四千四百三十八萬九千圓で、日本、第一に亞ぐ第三位に在る。八年度に於ける純増加高は一億八百四十萬九千圓で、其の年始年末中數契約に對する純増加率は九分九厘九毛に當り、この比率に於ては五大會社中他の四社に比し遜色がある。而して八年度に於ける新契約高は二億一千四百六十七萬四千圓に達し、これが中數契約に對する新契約率は一割九分六厘九毛に當り、明治生命の一割八分七厘八毛に勝つて居り著しき仲力を示してゐる

る。然るに一方失効解約を見るとこれ又九千三百二十二萬圓と比較的多く、この中數契約に對する失効解約率は八分五厘五毛に及んだ。即ち新契約の四割三分四厘三毛を失効解約で失つたのであるから、五大生命の一つたる當社としては香ばしい成績とは云へぬ。この點改善の必要があらう。尙ほ當社は八年度に於て死亡及滿期一千八百八十六萬一千圓を算し復活契約四百三十四萬八千圓を收めた。而して年末現在契約に對する平均保險金は二千七百七十六圓、中數契約に對する平均保險料は三十八圓六十錢である。

次に當社は八年度に於て七百九十五萬圓の事業費を使つた。當年度の收入保險料は四千二百八萬二千圓であるから收入保險料百圓當り十八圓八十九錢を要した譯である。

而して當社の八年度末資産は合計一億七千七百二十三萬一千圓に達し、契約者のために負擔する純負債とも見るべきものは、この内責任準備金、支拂備金、社員配當金を合して一億六千六十六萬九千圓に過ぎず、尙ほ責任準備金を當社の如く純保險料式とすることなく、明治の如くチルメル式を以つてするときは當社の純負債は更らに減額され得る勘定となりこの觀點から當社の總資産を觀察するならば至極安全なる資産状態なることを看取さ

れるのである。しかも當社の運用資産は他社と其の運用方針を異にし、主力を貸付金に置いてゐる點は注目し値する、即ち當社は八年度に於て總額の五割三分一厘を先づ貸付金に振り向け、他に二割二分五厘を有價證券に、二割一分五厘を預貯金に、二分七厘を不動産に夫々投資してゐる。殊に預貯金に總額の二割一分七厘を振り付けたことは其の額多きに過ぎ寧ろ拙なるものではなからうか。然しながらこの資産運用の成果を見ると諸利息收入一千九萬圓を擧げ、平均資産利廻六分二厘八毛、平均運用利廻六分三厘五毛を收めて居り、運用對象の頗る適確なるを首肯せしむるものがある。従つて當社が前記の點を考慮したらんには更に良好な資産収益を擧げ得たであらう。しかもこの資産利廻が五大會社中優位のものであるは勿論である。

斯くて當社は八年度に於て事業上の剩餘金一千二百二十五萬四千圓を計上した。よつて其の大部分たる一千二百二十五萬四千圓を契約者配當準備金に繰入れ遺憾なく相互組織の長所を發揮し、全く契約者本位の經營を實現したのである。而して當社は第一同様四分五厘累加配當を實行した。ただ當社は保險料が第一生命より稍高いが、契約者配當は第一が四

年目から開始し、満期後三年を以つて終つてゐるのに對し、當社は二年目から開始し満期をもつて終つてゐる。故に當社は配當開始が早いだけに其の配當を受ける社員も多かるべく、其の配當財産も亦多きを必要とする。其の點當社は勘なからぬ苦心を要する譯であるが、八年度末の契約者勘定を見ると、責任準備金は一億四千六百九十二萬四千圓、社員配當準備金一千二百四十九萬二千圓、支拂準備金は百二十五萬二千圓を擁して配當財源の充實を示してゐる。

創立 明治卅七年三月

基金 卅六萬圓（三千六百口金額償却済）

現重役 社長門野幾之進、常務堀井卯之助、取締役木村清四郎、小山禎三、士井正司、

中上川三郎治、石河幹明、監査役名取和作、麻生義一郎。

△支部所在地 東京、京都、名古屋、金澤、福岡、横濱、臺北、熊本、大阪、神戸、仙臺、廣島、小樽、京城、高松。

△保險種類 利益配當附終身保險、同甲種養老保險、同乙種養老保險。

明治生命

（東京市丸ノ内）

當社は我國生命保險事業の開祖である。其の歴史は最古にして其の經營は最新なる點に當社の特性を發見する。即ち明治十三年英國から歸朝した小泉信吉氏が莊田平五郎、阿部泰三氏等と圖り、資金の出資を三菱家に求め十四年七月阿部泰三氏を社長とし、資本金十萬圓を以つて創立されたのである。斯くて大正四年阿部社長勇退の後を襲ふて莊田氏社長となり、翌五年に資本金を五十萬圓に増額し後二百萬圓全額拂込となした。現社長武市利美氏が大正九年莊田氏に替つて社長に就任し藤田讓氏を専務として、恰かも老大國の感ありし社業の刷新を計り、低率保險主義を標榜して飛躍の基礎を作り躍進以つて今日に及んだものである。

當社の八年度末契約高は十億六千二百萬四千圓で、現在では千代田生命に次ぐ第四位の契約高を保有してゐるが、純増加契約は一億二千六百九十二萬六千圓で年始年末中數契約

の一割二分七厘一毛に當り、千代田生命の一億八百四十一萬圓を超過してゐる。兎も角當社は我國最古の保險會社であり、そして所謂五大會社の一にして、三菱直系で背景に申分なくその經營は堅實を旨としてゐる。

八年度の新契約高は一億八千七百五十五萬七千圓にして、年始末中數契約に對する新契約率は一割八分七厘八毛に當る、今これが新契約率を年度別に檢すれば、昭和四年度一割八分六厘九毛、五年度一割六分八厘二毛、六年度一割九分一厘八毛、七年度一割五分三厘一毛にして進歩向上の顯著なるを示してゐる。次に八年度に於ける失効解約は四千六百六十八萬七千圓を算した。而してこれが中數契約に對する失効解約率は四分六厘八毛に當る即ちこの失効解約率を年度別に見ると昭年四年度が四分七厘七毛、五年度が六分一厘四毛六年度が七分九厘七毛、七年度が七分三厘七毛であつて、著しき改善を示してゐる蓋し當社が失効解約率をこれだけの數字に止め得たことは、流石に契約の質の良好なることと當社の信用厚きを物語るものである。因に當社の年末現在契約に對する平均保險金は二千七十三圓にして、中數契約に對する平均保險料は四十三圓十五錢である。

當社は八年度に於て八百十三萬一千圓の事業費を使つてゐる。而して收入保險料が四千三百八萬七千圓であるから、收入保險料百圓に對し十八圓八十七錢の事業費を使つた譯である。同じく五大會社たる第一に比し四圓九十九錢高いが、日本生命のそれよりは四圓二十三錢、帝國生命よりは二圓六錢、千代田生命よりは二錢程低い、尙ほ八年度現在契約高千圓に對する事業費は七圓六十六錢で第一生命に比し二圓六十二錢、千代田に比し七十一錢だけ高いが、日本よりは一圓二十錢、帝國よりは七十五錢程低い、以つて當社經營の良好なるを窺知出来るであらう。

次に八年度末の總資産は二億二千五百八十二萬一千圓で、前年度より二千六百四十四萬五千圓の増加を示した。内主なるものは銀行預金の一千三百三十一萬一千圓、金錢信託の八百六十萬圓、貸付金の四千二百七十八萬九千圓、有價證券の一億四千九百十萬圓、不動産の四百二十五萬五千圓であつて正味資産に對する運用資産率は九割六厘を占め、運用資産比率は預貯金が一割一厘、有價證券が六割八分四厘、貸付金が一割九分六厘、不動産が二分の割合である。有價證券への投資六割八分四厘は低金利の折柄、當然の運用方針とは

云ひながら、預金が三菱銀行に偏するは勿論三菱の堅實を以つてすれば差支なしとするも危険分散の理から云へば必ずしも賛成出来ない、要は資産利廻の如何であるが、八年度の諸利息収入は一千一百七十七萬四千圓これが平均資産利廻は五分七厘、平均運用利廻は五分八厘七毛であつて、日本、第一、千代田、帝國等が何れも六分餘の利廻を擧げてゐるのに比すれば、稍々低い嫌ひがある。勿論資産内容の堅實なる點には申分なく、資産運用が手堅き點も異論の餘地なきも、たゞ運用方針に於て有利性に留意するの必要を感じる。

斯くて當社は八年度に於て利益金八百四十萬三千圓を擧げ、内契約者利益配當準備金に五百三十三萬八千圓を繰入れ、剩餘金三百六萬四千圓を計上した、而して契約者には三百五十三萬二千圓を分配し、臨時配當を併せて百萬圓（五割）を株主に配當したのである。因に當社は近年經營に積極味を加へ、優良會社としての躍進に見るべきものがある。

△責任準備金一八、七五八、九三一六圓、△特別責任準備金三、一六二、二二三圓、△利附保險利益分配準備金一三、一九一、二五九圓、△支拂備金二、三三八、一三三圓、

創立 明治十四年七月

資本金 二百萬圓（二萬株、全額拂込済）

現重役 取締役 會長 武市利美、專務 藤田讓

取締役 相島像一、小山實吾、各務幸一郎、串田萬藏、川原林順治郎、山下恒雄、阿部章藏、加藤武男

監査役 川喜田久太夫、物集女清明

△支店所在地、大阪、名古屋、福岡、金澤、札幌、

横濱、廣島、京都、岡山、長崎、仙臺、京城、神戸、

△保險種類、利益配當附終身保險、同養老保險、利益配當無教育資保險、

帝國生命 (東京市丸ノ内)

當社は明治廿一年加唐爲重氏の主唱にて海軍衛生部員の有力者發起人となり、資本金三十萬圓を以つて開業した。當時我邦には明治生命一社あるのみにして當社が第二の生命保險會社である。而して明治二十五年福原有信氏社長に就任し、資本金を百萬圓に増大し穩健着實なる經營方針の下に着々進展を圖り、大正十三年福原社長の没後井上公二氏之に代り、更に十四年現社長朝吹常吉氏就任して現在に及んでゐる。當社の特長は被保險者の健康増進施設の整備せる點、契約者配當率の最高なる點、保險約款の進歩的なる點、社内融和協力の徹底せる點、業績に無理なく平均して順調なる點等にある、總じて契約者本位の經營を本旨としてゐる。

所謂五大會社の一で、其の創立順から云へば明治に次ぐ第二位であるが、契約高から云へば八年末に於て第五位である。然し契約件數に於ては第二位を占めてゐる。八年度末の

契約高は五十六萬千七百十八件、^{十七億(約十八億圓)}七億七千五百六十四萬八千圓で、前年度に比し一億四百八十五萬二千圓の純増加を示し、其の年始年末中數契約に對する純増加率は一割四分五厘に當り、五大會社中比率に於て筆頭である。

而して新契約高は八年度に於て一億七千四百六十二萬四千圓、中數契約に對する新契約率は二割四分一厘五毛に當り、前年の二割八厘一毛に比し著しき躍進である。一方失効解約は五千八百七十七萬二千圓、中數契約に對する失効解約率僅かに八分一厘三毛に過ぎない。五大會社中新契約率に於て首位を示し、失効解約率に於て第四位にあり先づ以つて著しき進歩と云はねばならぬ。

當社は八年度に於て六百五十二萬二千圓の事業費を使つてゐる。而して收入保險料は三千百十六萬一千圓であるから、收入保險料百圓當り二十圓九十三錢を費した事となる。前年度の二十一圓四十七錢に比べて經費節約の跡見るべきものあり經營の合理化を窺はしむるが他の五大會社中の三社のそれに比較すれば改善の餘地がある。尙ほ當社の年末現在契約に對する平均保險金は一千三百八十一圓にして、對中數契約の平均保險料は四十三圓九

錢である。

當社の八年度末總資産は一億五千二百二十一萬四千圓で七年度より一千六百十萬七千圓の増加を見た。而して資産中の運用資産内譯は銀行預金が九百三十二萬七千圓、金錢信託が七百五十萬圓、貸付金が三千百七十四萬八千圓、有價證券が九千九百四萬圓、不動産が八百六十一萬八千圓であつて、運用資産比率は預貯金が六分八厘、有價證券が六割六分二厘、貸付金が二割一分二厘、不動産が五分八厘の割合である。貸付金の内容は保險證券擔保貸付の一千八百五十萬圓が大部分を占め、其他は不動産抵當千萬圓、財團抵當六百一十一萬七千圓、有價證券擔保五百七十一萬九千圓、公共團體無擔保百三十萬七千圓であつて、其の内容は頗る堅實である。更に有價證券の内容も極めて厳選され評價も極く内輪に見積り、評價益はこれを内部に保留して資産内容の堅實を期し、諸利息収入は八百四十五萬八千圓を算した。而してこれが資産利廻は平均資産利廻六分九毛、平均運用利廻六分一厘六毛を示し資産運用の至極妥當なるを物語つてゐる。

斯くて八年度の總利益金は八百二萬五千圓に達し、内六百四十萬一千圓を契約者利益配

當準備金に繰入れ、差引利益金百六十二萬四千圓を計上した。斯くて無配當保險特別分配金に四萬二千圓を分配し、株主配當は二十五萬圓（二割五分）を充當した。尙ほ被保險者健康増進資金として十萬圓を割愛したことは當社の特異點である。而して六十五萬二千圓を後期に繰越したのである。

斯くの如くして當社は年々業績の向上を示し、無理のない經營の下に着々積極的な收穫を擧げつつある。しかも當社の標榜する所は契約者第一主義であり、現に其の實踐を具現してゐるのであつて、近年の進歩力は眞に注目し得る。従つて契約者第一主義の實踐は契約者の理解する所となつて當社業績の上に反映し來つたのである。

されば八年度の責任準備金一億二千五百四十八萬三千圓、戰爭危險準備金百十六萬二千圓、保險契約利益配當準備金一千五百七十萬七千圓、保險契約利益配當保險料減額準備金百二萬八千圓、支拂備金百六十四萬六千圓を擁して當社利益の源泉は益々豊富となり來つたことを物語つてゐる。

創立 明治廿一年三月

保險・銀行・信託・早解り

保險・銀行・信託・早解り

二二三

資本金 百萬圓（二萬株、全額拂込済）

現重役 社長朝吹常吉、専務名取夏司、

取締役矢野義弓、福原信三、鈴木恒三郎、鈴木太郎、城谷忠三郎、
監査役小西喜兵衛、男爵高木喜寛。

△支店所在地 東京、仙臺、札幌、名古屋、廣島、京城、
大阪、福岡、金澤、京都、臺北、

△保險種類 利益配當附新種養老保險、利益配當無新種養老保險。

安田生命

（東京市日本橋區小網町）

明治十三年一月のことである。故安田翁を中心として共済五百名社なるものが組織された。組合員が一定の積金をなし、組合員の死亡に際して弔慰金を贈る目的で組織されたものであつたが、甚だ重寶な所から先代善次郎氏が明治二十七年十萬圓の資本金を以て株式組織の下に當社を設立し共済生命と稱した。當時社長には安田善助氏就任し、支配役として矢野恒太、野津操、森村金造の三氏を擧げ三十二年九月資本金を三十萬圓に増資し、社運の進展に努めたが、後安田善四郎氏を経て大正十四年安田善五郎氏社長に就任、更に昭和八年八月には社名を安田生命と改稱し、間もなく現社長四條隆英氏の就任を見て今日に及んでゐる。而して特長とする所は純然たる安田家の事業であり、其の經營が相互、株式兩組織の長所をとり契約者本位なる點にある。

（一、三、五、千、五、百、九、十、九、萬、圓）
即ち八年度の契約高は主億千五百十九萬圓にして前年度より二千四百九萬七千圓の純増

保險・銀行・信託・早解り

二二三

加である。今これを年始年末中數契約に對する純増加率を見ると六分八厘六毛にして前年度の三分六厘二毛に比すれば、著しき改善と進歩の跡を發見されるのである。而して八年度の新契約は五千九百七十萬四千圓で中數契約に對する新契約率は一割七分に當る。此處四年來の一割四分餘に對照し伸力の上に見るべきものがある。一方失効解約は三千一百四十五萬九千圓に過ぎず、中數契約に對する失効解約率八分九厘六毛でこれ又前年度の一割二厘四毛に比較し良好な成績と云ふことが出来る。しかし一流會社に比すれば尙ほ遜色あるを免れず素質の良い當社としては未だく躍進の可能性が充分にある。尙ほ當社の八年度に於ける死亡及満期は五百三十萬五千圓、復活其他の増加は二百十五萬二千圓、保險金額の減少は九十九萬四千圓を算したが、年末現在契約に對する平均保險金は一千四百十八圓、中數契約に對する平均保險料は四十二圓九十七錢を示したのである。

當社は八年度に於て三百五十一萬二千圓の事業費を使つてゐる。これを收入保險料一千五百八萬八千圓に對比すると收入保險料百圓當り正しく二十三圓二十八錢を費してゐる勘定だ。この事業費は先づ一流會社並の事業費と云ふことが出来る。しかも前年度の二十二

圓五錢に比すれば、事業費の膨脹を思はせるが、契約成績の伸展振りから考察すれば、この位の膨脹は止むを得ないであらう。

次に當社の資産は八年度に於て八千八百七十一萬四千圓に達した。前年より七百十九萬六千圓の増加である。而して資産中の運用資産は預金の一千九百八十萬圓、有價證券の三千二百三十一萬八千圓、貸付金の二千六百六十九萬二千圓、不動産の二百三十三萬五千圓、金錢信託の三百十七萬圓であつて、正味資産に對する運用率は九割八分三厘である。又運用資産比率は總額の四割一厘が有價證券投資であり、貸付金は三割七厘、預貯金は二割六分五厘、不動産は二分七厘の割合となつて居り、低金利の折柄預貯金の割合が多い嫌ひがないでもない。其處で當社の諸利息収入を見ると四百八十四萬九千圓を示し、資産利廻は平均資産利廻五分八厘八毛、平均運用利廻五分九厘九毛を收めたに過ぎぬ。これに依つて當社を見ると今一步と云つた物足らなさが感ぜられる。勿論當社の資産は八千八百七十一萬四千圓に達し、契約者のために會社が負擔する純負債は責任準備金、危險増加準備金、契約者配當準備金支拂備金を合して八千五百三十四萬九千圓であるから、資産状態は至極

安全であり、内容も亦堅實なるべしと思考されるのである。

されば當社は八年度に於て二百二十一萬九千圓の利益金を計上し前年より十六萬六千圓の利益増加を示した。而して當社はこの利益金の九割三分強二百八萬二千圓を契約者に分配し、株主配當は四千五百圓（年六分）を行つたに過ぎず、名實共に契約者本位の經營を實踐したのである。尙ほ當社八年度の責任準備金は六千九百九十八萬四千圓、危険責任準備金は二十四萬二千圓、契約者配當及び分配準備金は一千三百三十萬六千圓、支拂備金は百八十一萬六千圓に達した。

資本金 三十萬圓（七萬五千圓拂込）

現重役 社長四條隆英、常務丹治經三、佐々木秀司、取締役安田善四郎、安田善五郎、

竹下清松、監査役安田善兵衛、住野良三。

△支店所在地 東京、大阪、福岡、廣島、名古屋、仙臺、富山、京都、小樽、神戸、鹿兒島、宇都宮、高松、大連、京城、臺北。

△保險種類 昭和終身保險、昭和普通養老保險、昭和特別保險。

大同生命（大阪市土佐堀）

當社は明治三十五年七月の創立である。却ち當時制定されたる保險業法に依り整理命令を受けたる朝日生命及北滿、護國の三會社の合併により生れたものである。其の結果創業當時既に一定の地盤と基礎を有し、加ふるに經營者は關西の廣岡であつた故をもつて、社業も進展し今日に及んでゐる。

當社は八年度末（^{十三}八月末）に於ける契約高十億八千四百四十五萬三千圓であるから、

當社より九年前に創立された仁壽よりも八千九百七十七萬九千圓多くその發展は極めて迅速であつたと云へる。然も當社の信用は昨年來又一段と刷新された觀がある。即ち八年度に於ける純増加は一千五百萬一千圓であつて、年始年末中數契約に對する純増加は五分四厘八毛である。これを七年度の三分八厘三毛に比すれば著しき刷新である。又八年度の新契約高は四千五百七十五萬四千圓で中數契約に對する新契約率一割六分七厘に當り、これ又

七年度の一割四分九厘五毛に比較すれば、一段の躍進振りと云へる。一方失効解約は二千七百十八萬八千圓を算し、中數契約に對する失効解約率は九分九厘二毛に過ぎぬ。七年度の九分九厘五毛と比べ僅少ながらも改善の實を擧げた。死亡及滿期は四百九十五萬三千圓復活は三百一萬四千圓、保險金額の減少は百六十二萬四千圓を示し、年末現在契約に對する平均保險金は一千百六十二圓、中數契約に對する平均保險料は三十七圓二十六錢を示したのである。中堅會社としては至極良好な成績と云はねばならぬ。

尙ほ八年度の事業費は收入保險料が一千二百十萬六千圓で事業費二百四十六萬圓であるから收入保險料百圓當り二十四圓十一錢に當る。高い方ではないが未だ節約の餘地はあらうと考へられる。

次に當社の八年度末資産は七千二萬二千圓前年より三百三十四萬三千圓の増加である。正味資産に對する運用率は九割八分四厘、運用資産は總額の五割三分五厘、三千百五萬四千圓が有價證券、三割一厘の二千七十四萬八千圓が貸付金、五分一厘の三百四十九萬四千圓が預貯金、一割一分三厘の七百七十七萬八千圓が不動産の割合であり、この諸利息收入

四百二十萬三千圓で平均資産利廻六分三厘四毛、平均運用利廻六分四厘六毛と云ふ優秀な成績を擧げてゐる。即ち資産運用も其の内容も申分のない證左である。斯くて八年度に剩餘金二百五萬二千圓を計上、四十四萬六千圓を契約者配當準備金に繰入れ差引利益金百六十萬六千圓を上げた。而して其の内更に三十八萬餘圓を契約者の配當財源に繰入れ株主配當は二萬四千圓（八分）配當せるのみ。以つて高率配當會社たる當社の契約本位の經營を知るに足りやう。因に當社の責任準備金は五千九百十四萬九千圓、契約者配當準備金は七百三十萬七千圓、支拂備金は四十七萬四千圓となつた。

資本金 卅萬圓（六千株、金額拂込済）

現重役 社長廣岡惠三、副社長廣岡久右衛門、常務平澤眞、取締役松井萬綠、加輪上勢七、増山富次、入部泰藏、監査役廣岡松三郎、祇園清次郎、江見濱五郎。

△支店所在地 大阪、京都、名古屋、東京、廣島、福岡、金澤、札幌、京城、横濱、神戸、宇都宮、新潟、高松、岡山

△保險種類 利益配當附普通養老保險、利益配當附特別養老保險

保險・銀行・信託・早解り

三井生命

(東京市日本橋區室町)

當社は大正三年三月創立の高砂生命を大正十五年三井家が原邦造氏より買収して、三井生命と改稱し、社長に團琢磨氏、専務に野依辰治氏が就任したが、團氏の没後賀長文氏の社長就任を見、今日に及んでゐる。

昭和八年末の契約高は十億五千九百四十五萬三千圓、前年度末に比し四千九百十六萬二千圓の純増加である。この中數契約に對する純増加率は二割九厘三毛に當り、五大會社を凌駕して餘りがある。又新契約高は六千四百萬四千圓に達し、中數契約に對する新契約率二割七分二厘五毛はこれ又五大生命の比率を遙かに抜いてゐる。一方失効解約を見るとこれは一千四百三十八萬圓で、中數契約に對する失効解約率僅々六分一厘二毛に過ぎぬ。契約保全に於て眞に理想に近い。ただ明治の比率四分六厘八毛には遜色を感じる。而して死亡及滿期は二百二萬七千圓、復活は二百三十二萬圓、保險金額の減少は七十五萬四千圓であつて、年末現在契約に對する平均保險金額は一千八百四十圓、中數契約に對する平均

保險料は四十八圓三十一錢である。以つて契約實質の優良と安定性と業績の良好さを看取するに足るのである。

八年度の收入保險料は一千百三十四萬六千圓、事業費は二百六十七萬圓で、收入保險料百圓當りの事業費は二十三圓五十四錢を要した。前年度の二十四圓二十七錢に比し、著しき經費節約の努力が窺はれ、經營の合理化が認められる。畢竟これ契約者の利益増進を物語るものである。

次に八年度の資産は三千三百八十四萬四千圓に達し、前年より一千三百七萬五千圓の増加を示した。而して正味資産に對する運用率は九割八分二毛である。更にこれが運用資産の内譯を見ると運用資産總額の六割二分九厘に當る一千九百九十七萬圓が有價證券であり二割五分に當る七百九十四萬一千圓が貸付金にして、預貯金は三百七十八萬七千圓で一分二分を占め、不動産は五萬圓で僅々二厘を有するに過ぎない。不動産の少ないのは當社の特異點であり、他は妥當の運用状態で内容の確實なるは云ふまでもない。然し諸利息收入の百五十五萬九千圓に對する、平均資産利廻五分五厘六毛、平均運用利廻五分六厘六毛は

約高は二千九百四十五萬六千圓に達し、中數契約に對する失効解約率一割三分九厘八毛に及ぶは寧ろ多きに失し契約保全の對策を必要とする。其他に死亡及滿期が三百二十八萬四千圓、復活が百三十二萬圓あり、保險金額の減少が二百三十二萬二千圓を算した。尙ほ年末現在契約に對する平均保險金額は一千百三十一圓、中數契約に對する平均保險金額は三十四圓五十三錢で中堅會社としては先づ順當な方である。

八年度の事業費は二百八十一萬九千圓、收入保險料は七百二十七萬三千圓で收入保險料百圓當りの事業費は三十八圓七十六錢であるから、この事業費は寧ろ費ひ過ぎてゐると云へる。この點は當事者の經營合理化を望むべき主要所と申さなければならぬ。

更に當社の資産を見やう。八年度のそれは四千九百五十八萬二千圓で前年より三百十六萬圓の増加である。而して正味資産に對する運用資産率は九割八分二厘を占め、運用資産比率は有價證券が三割三分一厘、貸付金が三割五分九厘、預貯金が二割四分三厘、不動産が六分七厘である。又其の金額は有價證券で一千四百三十八萬八千圓、貸付金で一千七百二十七萬八千圓、金錢信託で百四十萬圓、銀行預金で千二十二萬四千圓、信託有價證券で

百五十三萬八千圓、不動産で三百二十萬五千圓となつてゐる。總じてよく分散され堅實一天張りの觀がある。この諸利息収入は二百二十三萬一千圓で平均資産利廻は四分八厘二毛平均運用利廻は四分九厘六毛となつた。資産利廻の點は中堅會社として研究に値しやう。

尙ほ八年度の剩餘金は九十一萬七千圓、内七十四萬二千圓を契約者配當準備金に繰入れ差引利益金十七萬四千圓を計上した、斯くて株主配當は三萬二千圓（年八分）を行ひ最も公平に契約者本位の分配を行つたのである。因に八年度末の責任準備金は四千四百八十七萬一千圓、保險契約者配當準備金百九十六萬九千圓、支拂備金は五十八萬圓を算した。

創立 明治廿八年二月

資本金 百萬圓（二萬株、四十萬圓拂込）

現重役 社長柴山鷲雄、專務西村勝太郎、取締役野村元五郎、片岡晋吾、山内貢、梅上尊融、同支配人富成官吉、監査役松島準吉、岩田富造、松村松盛、野村惠二

支店所在地 東京、京都、大阪、廣島、福岡、富山、仙臺、名古屋、札幌、大連、神戸、高松

保險種類 利益配當附終身保險、同養老保險、同幸福生存保險

住友生命 (大阪市東區北濱)

當社は明治四十年五月、資本金四十萬圓半額拂込を以つて日之出生命と稱し開業した。當時の社長は故大倉喜七郎氏、專務は岡本敏行氏で當初は無代理店主義を標榜し、社員を制限し、消極方針の下に經營したので、業績は遅々として伸びず、内容も餘り良好ではなかつた。斯くて大正十一年、資本金を百五十萬圓に増額し、十三年には岡本專務辭任して下郷傳平氏に其の經營を譲つたので、一時仁壽との合併が世評に上つたが、翌十四年に住友家が買收し、十五年に本社を大阪に移し社名を住友生命と改稱し同家經營の下に今日に及んだ。當社は流石に住友財産を背景としてゐるだけあつて以來面目を改め、内容外觀共に今や一流會社に躍進した。

即ち當社八年度の新契約高は五千八百七十九萬七千圓に達し、中數契約に對する新契約率は三割五厘五毛と驚異的伸力を示したるにも拘はらず、一方失効解約高は一千七十四萬圓に過ぎず中數契約に對する失効解約率僅々五分五厘八毛のみ。蓋しこの成績は理想に近

きものであり、契約實質の良好と契約保善策の全きを物語るものである。更にこの外に死亡及滿期契約が二百二十二萬九千圓、保險金額の減少が四十八萬圓あり、他方復活契約五十一萬五千圓を算し差引八年度に於ける純増加四千五百九十六萬三千圓を加へて年末現在契約高は十億一千五百四十三萬四千圓に達するに至つたのである。而して中數契約に對する純増加率は二割三分八厘八毛と恐るべき高率を示し、しかも年々向上を辿つてゐる。又年末現在契約に對する平均保險金額も一千九百一圓の好割合を示現し、中數契約に對する平均保險料四百四圓三錢を示した。眞に一流會社中屈指の良好な成績と云へる。

尙ほ當社八年度の事業費は二百二十三萬四千圓、收入保險料は八百四十七萬三千圓であつて收入保險料百圓當りの事業費は二十六圓三十七錢を要した。これを七年度の二十四圓九十六錢に比すれば、事業費は費ひ過ぎの嫌ひがあり、經費節約に更に一段の努力を必要とする餘地がある。

次に當社八年度の資産は二千六百八十九萬五千圓に達し、前年より四百六十五萬四千圓を増加した。而して正味資産に對する資産運用率は九割九分二厘を占め、運用資産比率は

總額の七割七分四厘に當る二千七萬四千圓を有價證券に、一割三分一厘に當る三百九萬圓を貸付金に、九分に相當する二百三十三萬五千圓を預貯金に、五分に當る十二萬八千圓を不動産と云ふ割合で運用して居り、この諸利息収入百三十萬八千圓を上げ、平均資産利廻五分六厘五毛、平均運用利廻五分七厘を收めた。

斯くて當社は八年度に剩餘金百四十五萬三千圓を上げ、内八十八萬六千圓を保險契約者利益配當準備金に繰入れ差引利益金五十六萬六千圓を計上、更に十八萬五千圓を契約者に分配し五萬二千五百圓（七分）を株主に配當した。因に八年度末の責任準備金は二千七百七十萬三千餘圓、契約者配當準備金は百九十萬九千圓、支拂備金は二十四萬六千圓となつた
 資本金 百五十萬圓（一萬五千株半額拂込）

現重役 會長小倉正恒、專務國府精一、常務阪本信一、取締役住友吉左衛門、橋本重幸

八代則彦、今村幸男、監査役松本順吉、植野繁太郎

支店所在地 東京、大阪、福岡、名古屋、神戸、金澤、京都、廣島、仙臺、札幌

保險種類 毎年配當附養老保險、五年配當附養老保險、利益配當無終身保險

昭和生命

（東京市芝區田村町）

當社は大正八年九月の新設會社であり、この後に創立されたるものには片倉、國華、富國の三社あるのみ、日本醫師會を中心として全国各地の醫師會と連絡をとり、基金五十萬圓は之を五千口に分ち、全國の醫師會及其の關係者の贖出により設立され日本醫師共濟生命と稱した。組織は相互組織をとり當初社長は實吉子爵、專務には八木逸郎氏就任したが後八木氏社長となり、昭和八年十一月社名を昭和生命と改稱し、國光、東海、蓬萊、中央の四相互會社の資産契約を包括移轉して一躍契約高二億を有する中堅會社となつた。

されば當社の八年度成績は四社合併の過渡期にあり、成績の安定を表示するに至つてゐない。即ち新契約高は一千五百九十四萬九千圓にして年始年末中數契約に對する新契約率一割一分一厘一毛の伸力を示したに過ぎぬ。而して一方失効解約は三千九百六十三萬六千圓に及び、中數契約に對する失効解約率二割七分六厘に達したるは合併後未だ契約の安定を見なかつたためである。死亡及滿期は三百六十一萬八千圓、保險金額

の減少は百四十二萬三千圓を示したが、其他の増加契約は四社の契約をこの項目に加へるため、一億四千四百七十九萬五千圓を算したために純増加一億一千六百六萬五千圓を加へて年末現在契約高は二億百六十五萬九千圓に達したのである。この中數契約に對する純増加率は八割八厘一毛に當る。尙ほ年末現在契約に對する平均保險金額は九百四十六圓となるが、これは古い契約が多いため、新契約の平均金額は一千二百七十五萬圓を示して居り中數契約に對する平均保險料は四十二圓九十八錢である。

八年度の事業費は二百十九萬圓、収入保險料は六百十七萬三千圓で、収入保險料百圓當りの事業費は三十五圓四十九錢に當り節約の必要があらう。八年度の總資産は六千二百六萬七千圓前年より四千二百七萬五千圓の増加であり、これに對する資産運用率は九割四分三厘で稍低い憾みはある。而して運用資産の比率を見ると運用資産總額の四割が有價證券投資であり、貸付金が二割九分四厘、預貯金が一割八分一厘、不動産が一割二分六厘の割合である。この金額は銀行預金八百六十一萬八千圓、金錢信託百四十七萬圓、郵便振替貯金四十八萬圓、貸付金一千七百十八萬九千圓有價證券二千三百十二萬四千圓、信託有價證

券三十萬圓、不動産七百三十六萬八千圓である。又この諸利息収入は二百十七萬七千圓で平均資産利廻五分四厘五毛、平均運用利廻五分七厘四毛は一寸物足らぬ感がある。

次に八年度の總利益金は百二十六萬五千圓内契約者利益配當準備金繰入六十五萬三千圓を差引いた剩餘金は六十一萬一千圓を計上更に四十六萬二千圓を契約者配當準備金に繰入れたのである。されば契約者に屬する諸準備金は金六千十一萬四千餘圓を算する至つた。

△基金 五十萬圓(二十五萬圓償却)

△現重役 社長八木逸郎、取締役北島多一、曄道文藝、仲曾根玄愷、武末祐三郎、林曄

監査役大塚健次、中山壽彦、前田青莎

△支部所在地 旭川、札幌、秋田、仙臺、山形、福島、新潟、水戸、宇都宮、浦和、千葉

長野、東京、横濱、静岡、名古屋、富山、京都、大阪、奈良、和歌山、神戸、岡山、

廣島、松江、徳島、高松、山口、福岡、長崎、大分、熊本、鹿兒島、宮崎、京城

△保險種類 利益配當附終身、同養老、同延壽終身、同延壽養老、同短期拂込養老

愛國生命

(東京市麹町區有樂町)

當社は明治二十九年資本金卅萬圓をもつて設立され、當初の社長は戸塚文海氏であつた後安川繁造氏に替り、四十年三月に當社設立の發企人たる鈴木萬次郎氏社長に就任したるも業績振はず、大正十三年に高砂生命の社長たりし原邦造氏之を買收し經營上の實權を獲得して前社長菊地氏の後を襲ひ、曄道文藝氏を専務に招じて陣容を一新し、「低率保険料」を標榜して更生の途に就いたが、其の後昭和九年九月に東華生命を翌八年十一月には壽生命を包括移轉し、異常な發展を遂げて今日に至つた。

先づ八年度の新契約高に就て見ると、それは三千二百五十六萬三千圓にして年始年末中數契約に對する新契約率一割七分三厘五毛に當る。従つて順當の伸力と云ひ得るが、一方失効解約高に於ては二千百三十九萬一千圓を算し中數契約に對する失効解約率一割一分四厘を占めたることは、當社として順調な成績とは云はれない。一流會社に比して尙ほ契約保全對策の必要が感ぜられる。次に死亡及滿期は三百六十二萬一千圓、保險金額の減少は

六十萬八千圓で、復活及増加が二千十五萬八千圓に及んだ。これは壽生命契約の包括移轉に依るものである。従つて八年度に於ける純増加は二千七百十萬圓、中數契約に對する純粹増加率一割四分四厘四毛を加へて年末現在契約高は二億百二十三萬七千圓に達するに至つた。而して年末現在の平均保險金額は一千二百八十八圓、新契約のそれは一千九百七圓、中數契約に對する平均保險料は四十圓二十二錢である。

當社八年度の收入保險料は七百五十四萬八千圓、事業費百九十五萬九千圓で收入保險料百圓に對する事業費は二十五圓九十五錢であるから、前年度に比べると事業費が幾分高くなつたやうであるが、これは保險料收入の減少に依る。蓋しこの程度の事業費ならば寧ろ好成績の方である。當社は元來低料保險の元祖であつて、三十年滿期養老一萬圓で二百八十九圓斯くの如き低保險料は日本一である。當社は尙この上に保險料積立金の三分の契約者配當を行つてゐる。従つて當社の事業費の低いことも經營の内部に極度の節約を行つたからである。

八年度の剩餘金は百一萬七千圓、内五十八萬七千圓を契約者配當準備金に繰入れ差引利

益金四十三萬圓を計上、別に契約者配當準備金として五萬一千圓を割愛し、株主配當は十一萬九千圓（二割二分）を行つた

八年度の資産は四千八百六十九萬七千圓で前年より五百四十一萬五千圓の増加、運用資産は郵便振替貯金二十四萬二千圓、銀行預金七百十萬五千圓、金錢信託三十二萬圓、貸付金一千七百一十一萬二千圓、有價證券一千八百五十四萬圓、信託有價證券百五十三萬九千圓、不動産二百七十三萬七千圓、諸利息収入二百五十萬六千圓、平均資産利廻五分六分八毛、平均運用利廻五分七厘五毛を收めた。八年度末の責任準備金は四十三萬九千八百三十圓、契約者利益配當準備金は九十七萬七千圓支拂備金八十九萬三千圓で資産の改善順當である
資本金 百二十萬圓（五十二萬五千圓拂込）

現重役 社長原邦造、専務曄道文藝、取締役根津嘉一郎、岸本兼太郎、中野金次郎、本庄忠治、布田與雅、監査役驅井久吉

支店所在地 東京、大阪、名古屋、金澤、京都、福岡、仙臺、廣島、高松、小樽、横濱、

京城、神戸、前橋 △保險種類 利益配當附新種養老、同特種養老、同普通養老

日華生命

（東京市日本橋區）

當社の創立は大正三年八月であるから、創業最も新しい会社である。にも拘はらず契約高は八年度末で一億九千二百六十二萬圓になつてゐる。契約の伸度から云へば素晴らしいものだが、ただこの会社の契約は合併と包括移轉によるものが少くない。即ち大正十三年には萬歳生命を買收して、昭和四年八月これを合併し、資本金百萬圓が二百五十萬圓となり、年末契約高一億五千四百萬圓に及んだ、次いで昭和五年四月末には八千代生命を包括移轉して二百五十萬圓を増資し資本金五百萬圓なり、更に大正有隣を支配下に福徳を買收して日清にまで手を伸ばすに至つてゐる。若し之等を合併することとなれば、當社は僅に五億圓の一流會社の列に入るであらう。

今當社八年度の業績を見ると新契約三千百四十萬四千圓に對して二千九百四十六萬六千圓の失効解約を出してゐる。年始年末中數契約に對する新契約率は一割六分三厘五毛、失効解約率は一割五分三厘四毛で失効解約が多きに過ぎる。其處で死亡及満期の四百十八萬

五千圓の保險金額の減少百十三萬五千圓、復活及増加四百五十七萬六千圓を加減すると結局純増加は百十九萬三千圓、純増加率は僅々六分二毛だが前年よりは改善され業績は好調に向つたことを物語つてゐる。斯くて年末現在契約高は一億九千二百六十二萬一千圓、新契約の平均保險金額は一千四百八十四圓、中數契約に對する平均保險料は四十圓八十三錢を示した。

次に當社は八年度の收入保險料七百八十四萬一千圓に對して事業費二百五十七萬圓、收入保險料百圓當り三十二圓七十九錢の事業費を費つてゐる。中堅會社の事業費として幾分高いと云はなければならぬ。尙ほ八年度の總資産は五千九百四十四萬一千圓で、前年より百七十八萬四千圓を増加してゐるが、内運用資産は郵便振替貯金十萬六千圓、銀行預金七百六十二萬六千圓、金錢信託百四十萬圓、貸付金一千二百二十四萬一千圓、有價證券二千七百七十七萬四千圓、不動産四百六十八萬六千圓で、其の運用比率は總額の一割七分が預貯金、二割二分七厘が貸付金、八分七厘が不動産、五割一分六厘が有價證券であつて、中心を有價證券に置いてゐる。正味資産に對する運用資産率は九割六分六厘である。而して

八年度に於ける諸利息収入は二百八十五萬六千圓で、平均運用利廻は五分三厘五毛、平均運用利廻は五分五厘七毛である。

斯くて八年度の總利益金は七十六萬六千圓を上げ、内五十七萬六千圓を契約者配當準備金に繰入れ、差引利益金十九萬圓を計上した。この處分は法定準備金特別危險準備金に各一萬圓、役員賞與三萬圓、株主配當十萬五千圓、從業者退職基金三萬圓、次年度繰越金五千圓である。又八年度末の責任準備金は五千七十八萬九千圓、特別責任準備金は二十一萬六千圓、保險契約者配當準備金は七十萬九千圓支拂備金は百六十五萬二千圓に及び、内容も亦好調に向ひつつある。

現重役 社長川崎甲子男、取締役河合良成、村田省藏、赤星四郎、藤山愛一郎、川崎守之助、佐久間心一郎、同支配人高橋彌太郎、監査役菅田英久、窪田四郎

支部所在地 東京、大阪、千葉、水戸、京都、神戸、名古屋、横濱、廣島、福岡、仙臺、臺北、小樽、京城、金澤、新潟、松本、熊本、秋田

保險種類 利益配當附終身A 同養老A 同養老B 同終身B

保險・銀行・信託・早解り

仁壽生命

(東京市麹町區内幸町)

當社は明治二十七年九月の創立である。創立は當時の帝國教育會長辻新次郎男爵が主として小學校教員の相互救済を目的として資本金十萬圓、半額拂込の合資會社として創立したものである。だが創業十年にして契約高千五百萬圓、業勢は遅々として振はず、これに代つて現社長下郷傳平氏經營の衝に當り、大正四年に組織を改めて資本金百萬圓の株式會社となし、大半の株を下郷家で所有し事業經營に専心して今日に至つた。

當社は從來契約高二億五千萬圓程度を有して進歩會社の一をもつて見られたこともあつたが、昭和二年の財界恐慌以來無理を重ねて來た嫌ひがあるのと其の間重役に人を得ざりし點もあり、業績が幾分低下したのである。即ち新契約が減少して失効解約が増加した。ために昭和六年春に舊重役其他を入れ更へて改めて社長下郷傳平氏の再出馬となり、契約の減少を恐れず不良契約を整理し事業費の節約に努力して不良資産を捨て其の充當を計つたので最近其の業績は著しく見直して來た。

これを八年度に就て見ると新契約高は三千七百四十八萬八千圓を收め、年始年末中數契約に對する新契約率一割九分八厘九毛と前年の九分六厘を遙かに超過し、失効解約高は二千五百十四萬六千圓、中數契約に對する失効解約率一割三分三厘四毛に止めた。然し失効解約率は前年の一割二分一厘四毛より減じたとは云はれない。然しながら結局に於て純減少が純増加に轉じ七百五十四萬四千圓の純増加を加へて年末現在契約高一億九千二百二十七萬四千圓に達したことは著しき業績の轉向を示すものである。中數契約に對する純増加率四分は率に於て低いが、好ましき実績と云はねばならぬ。然るに一方事業費は積極策の反映として膨脹を餘儀なくされた。即ち八年度の收入保険料八百一十一萬五千圓、事業費二百四十六萬八千圓で收入保険料百圓に對し三十圓四十三錢を費つてゐる。中堅會社の事業費としては餘程高い方である。

更に當社の資産内容は著しく充實して來た七年度の未收利息七萬三千圓が八年度に於て整理されたことは其の一端を立證するものである。八年度の總資産は五千五百二萬二千圓で前年より百九十萬五千圓の増加である。内運用資産は五千三百五十五萬一千圓で其の三

割二分三厘、一千七百三十萬九千圓を預金に、三割九厘一千六百五十六萬六千圓を有價證券に、二割七分三厘一千四百六十三萬四千圓を貸付金に、九分四厘五百四萬圓を不動産に運用してゐる預貯金の三割二分三厘は堅實一天張りの運用ではあらうが、低金利の折柄多過ぎる嫌ひがある。従つて諸利息収入二百七十八萬三千圓平均運用利廻五分二厘八毛、平均運用利廻五分四厘四毛と資産利廻の低いのも理由が運用資産割合の邊に存するのであらう。而して八年度の剩餘金は百六十九萬四千圓、契約者利益配當準備金繰入百八萬五千圓で差引利益金は六十萬九千圓を計上し、株主配當八分（十六萬圓）を行ひ二十萬圓を記念準備金として積立てた。尙ほ契約者勘定の諸準備金は五千百五萬一千圓に達した。

現重役 社長下郷傳平、専務吉澤銚三郎、取締役河越萬三郎、松野與、下郷義一、大川平

三郎、下出民義、監査役北河豐次郎、福井彌平、田中榮八郎

支店所在地 東京、大阪、名古屋、福岡、小樽、廣島、仙臺、金澤、函館、神戸、京都

新潟、熊本、横濱、松本、秋田、高松

保險種類 利益配當附養老、新種保險

日清生命

（東京市麹町區内幸町）

當社は故大隈侯の創意で早稻田系の學者、實業家によつて明治四十年一月創立せられた大隈侯の創意は創意として三田系の千代田生命の出現に促されたことは事實である。初代の社長は前島密氏、次いで中野武營氏、池田龍一氏等を経て理社長望月軍四郎氏社長となり、會長に山田英太 氏の就任を見て、以來中堅會社として先づ順調なる發展を遂げ八年度末現在契約高一億七千四百二萬九千圓に達するに至つた。

昭和八年度の業績を見ると新契約が三千五百五十二萬圓で年始年末中數契約に對する新契約率が二割一分二厘六毛、失効解約一千八百九十五萬一千圓、中數契約に對する失効解約率一割一分三厘四毛で、當年度の純増加は一千三百八十九萬五千圓。中數契約に對する純増加率八分三厘二毛を示し、これを前年度の八分三毛、六年度の三分八厘九毛に較べると遙かに純増加は増してゐる。斯くて年末現在契約は一億七千四百二萬九千圓、最近の中流會社は何れも新契約の獲得に悩み、失効解約の續出に困難して純増加の如きは殆んど見

るべきものがないのであるが、当社が三千五百五十二萬圓の新契約を獲得して一千三百八十九萬圓の純増加を残したことは甚だ好成绩と云はなくてはならぬ。

ただ新契約が増大したので事業費が膨脹した。八年度収入保険料六千六百九萬六千圓に對して事業費は二百六十六萬六千圓、収入保険料百圓に對する事業費の割合は三十九圓八十一錢、前年度の三十九圓三十一錢に較べると五十錢方増嵩したのであるが、これを全體的に見ると寧ろ廉くなつた。即ち契約千圓に對する事業費は十五圓三十二錢で前年の十六圓五十五錢に比し一圓二十三錢を低下したのである。しかし中堅會社としては尙ほ高いと云はなければならぬ。

次に当社八年度の資産は三千七百五十一萬八千圓で、前年より百四十四萬五千圓の増加である。而してこの内運用資産は三千四百七十九萬七千圓で運用状態は一割一厘、三百五十一萬九千圓を預貯金に、四割一分一厘、一千四百三十萬八千圓を有價證券に、三割五分四厘、一千二百三十萬八千圓を貸付金に、一割三分四厘、四百六十六萬一千圓を不動産に運用してゐる。先づもつてこの運用割合は妥當であり、正味資産に對する運用率は九割六

分六厘は當る。諸利子収入は百九十五萬七千圓、平均資産利廻五分七厘一毛、平均運用利廻六分一厘三毛は低金時代良好の利廻と言へる。

八年度の剩餘金は六十八萬八千四百七十六圓、内千三百七十六圓を遞減養老契約者配當金に繰入れ差引利益金六十八萬七千餘圓を計上、この内更に三十三萬六千餘萬を契約者利益配當準備金に處分し、株主配當は七萬圓（年一割四分）を行ひ、七萬餘圓を次年度繰越金とした。尙ほ八年度末の責任準備金は三千二百七十七萬圓、戰爭危險準備金は十三萬七千圓、生存分配準備金は八十三萬圓、保險契約者利益配當準備金は五十二萬一千圓、支拂備金は三十六萬圓を擁し、將來の發展が期待される。

現重役 會長山田英太郎、社長望月軍四郎、專務吉田秀人、常務佐伯叔作、取締役増田

義一、前島彌、五十嵐直三、監査役平田讓衛、高梨博司、白石勝彦

支社所在地 東京、大阪、名古屋、京都、神戸、福岡、金澤、京城、宇都宮、熊本、廣島

高松、横濱、静岡、新潟、仙臺、札幌、臺北、旭川、大連、岡山、秋田

保險種類 利益配當附養老、同普通養老、同共榮養老、同遞減養老。

保險・銀行・信託・早解り

（三毛）
（合併）



（東京市麴町區大手町）

當社は明治三十三年十月大谷幸兵衛氏を社長として共慶生命と稱して開業せるも業績全く振はず、同三十七年森村金造氏事務取締役に就任し、資本金を十萬圓より五十萬圓に増資し、社名を東洋生命と改稱、銳意挽回に努めたるも更に振はず、同四十三年故尾高次郎氏社長に就任、顧問役には氏の義父澁澤榮一子起ち指導後援の勞をとりしため社運漸く好轉し、資本金も百萬圓に増資し社業進展時代の趨勢に添はしめたが、大正八年氏の物故により福島宜三氏社長に就任、放漫經營から社業の衰退を來たした。後木村雄次氏を社長とし内外事務の刷新を斷行し資本金を二百萬圓に増資今日に及んでゐる。

昭和八年度の事績を見ると新契約は三千百十五萬四千圓で相當の伸力を示してゐるが、失効解約が二千百六萬五千圓もあり甚だ多い従つて純増加が六百八十二萬二千圓と云ふ程度で八年末現在契約高一億三千五百七十一萬六千圓、歴史の古い割に發展は遅々たるを免れぬ状態にある。契約を嚴選して失効解約を防止することに努めねばならぬ。

八年度收入保険料は六百二十六萬三千圓、事業費は百九十七萬五千圓で收入保険料百圓當りの事業費は三十一圓五十五錢に當る。これを前年度に較べると三圓八十一錢を上げてゐるが、これは保険料收入の減少に依るものである。八年度末の總資産は三千七百二十一萬一千圓、諸利息收入は百八十七萬六千圓で平均資産利廻五分五厘四毛、平均運用利廻五分七厘四毛である。八年度利益金は五十五萬五千圓で内三十八萬圓を契約者配當準備金に繰入れ三萬圓を株主に配當した。當社は内容はガツチリしてゐるが伸力が鈍い。因に諸準備金は三千四百二十萬九千圓である。

創立 明治卅三年十月

資本金 二百萬圓（四萬株五十萬圓拂込）

現重役 社長木村雄次、常務金井滋直、同細貝正邦、取締役永田甚之助、澁澤敬三、野

口彌三、監査役鎌田勝太郎、大原萬壽雄

支社所在地 東京、大阪、仙臺、名古屋、福岡、札幌、廣島、京都、金澤、臺北、京城、秋田

保險種類 利益配當附全壽保險、同長壽保險、同聯合長壽保險、同長壽組合保險

保險・銀行・信託・早解り

有隣生命 (東京市丸ノ内)

當社は明治二十七年の創立、大正五年飯田延太郎氏の買収する所となり、神國、有隣兩社を合併し有隣の名を残した。合併當時の契約高二千六百三十萬圓で資産五百萬圓、其後十六回の決算を経て契約高は一億一千七百二十九萬六千圓、當時の業績から見れば順調なる發展と云はなくてはならぬ。元來當社の經營は消極一點張りでも少しも契約に焦らない。八年度の業績を見ると新契約が一千九百十九萬九千圓、失効解約が二千四百二十三萬七千圓で、當年度の減少契約七百七十九萬五千圓、年末契約高は一億一千七百二十九萬六千圓である。當年度は不良契約を整理したので契約の減少と共に保険料収入も幾分減少した。従つて事業費割合は幾分増嵩したのである。収入保険料四百六十三萬五千圓、事業費百六十九萬二千圓で収入保険料百圓に對する事業費割合は三十六圓五十三錢。諸利息収入百七十七萬八千圓、總資産三千五百七十五萬圓、平均資産利廻五分一厘六毛、平均運用利廻五分三厘一毛で、資産利廻は前年度に較べると幾分低下したが、これは最近の低金利の波を受けた自然の減收である。資産の分布は運用資産三千四百七十八萬九千圓の二割九分三厘

千十八萬六千圓を預貯金に、二割三分八厘八百二十七萬九千圓を貸付金に四割四分四厘千五百四十五千圓を有價證券に二分五厘八百七十三千圓を不動産に利用してゐる。八年度總利益金五十六萬七千圓、内契約者利益配當準備金繰入十四萬三千圓、差引利益金四十二萬三千圓を計上、更に契約者配當準備金に十五萬圓を繰入、二萬一千圓を株主に配當した。諸準備金は三千四百四十七萬六千圓を擁し資産の内容もガツチリしてゐる。

創立 明治廿七年三月

資本金 三十萬圓 (六千株全額拂込済)

△現重役 常務高梨博司、同字井孝三、取締役飯田久一郎、大村信善、木村淺治、伴平太郎、監査役平野長祥

支部所在地 東京、大阪、福島、名古屋、廣島、金澤、福岡、札幌、京城、京都、熊本、高松、横濱、新潟、秋田、神戸、千葉、大宮、長野、前橋

保險種類 利益配當附割増金附養老、利益配當附養老、利益配當無教育結婚資金保險

保險・銀行・信託・早解り

片倉生命

(東京市京橋區)

當社は信州の製糸家片倉組の發企に係はり資本金五十萬圓、社長には片倉製糸の社長今井五介氏、專務には片倉脩一氏就任して大正十年十一月開業した。而して片倉製糸會社並に其の取引關係ある蠶糸家を地盤としてゐるため、開業日尙淺きにも拘はらず業績順調に經過してゐる。しかも昭和八年十二月には大安生命を包括移轉し、其契約一千一百十四萬一千餘圓を加へ、八年度末の契約高一億一千九萬七千圓に達した。

今當社八年度の業績に就て見ると新契約は三千六百二十二萬七千圓で、年始年末中數契約に對する新契約率三割六分四毛を示し、失効解約は二千六百十萬七千圓にして中數契約に對する失効解約率二割五分九厘七毛に當るこれを前年度の新契約率二割七分五厘四毛、失効解約率三割四分六厘なるに比すれば著しき改善振りで面目一新の感がある。純増加は大安生命の移轉契約を合して二千百十五萬一千圓を數へ、中數契約に對する純増加率實に二割一分四毛の高率を示し年末現在契約一億一千百十萬七千圓となつたのである。事業費

は二百十八萬六千圓、收入保険料四百四十四萬四千圓で、收入保険料百圓對する事業費四十九圓十九錢は費ひ過る感がある。勿論之は收入保険料の低きに依るもので契約金額の低いためである。即ち年末現在契約の平均保険金額九百六十五圓はこれを物語るものである。次に八年度末資産は二千三百三十二萬五千圓で前年より五百四十九萬圓の増加、諸利息收入百二十二萬六千圓で平均資産利廻六分一厘四毛、平均運用利廻六分三厘五毛の好調である。利益金は二十一萬六千圓、内十七萬五千圓を契約者配當準備金に繰入れ、二萬八千圓を株主に配當した。諸準備金は二千二百二十二萬九千圓に達し業績好轉を物語る。

創立大正十年九月、資本金五十萬圓(一萬株、全額拂込濟)

現重役、社長今井五介、專務片倉脩一、取締役武井覺太郎、片倉武雄、片倉直人、

監査役林清夫、宇治光治、尾澤福太郎、

支社所在地、東京、大阪、名古屋、仙臺、秋田、札幌、大邱、京城、金澤、廣島、松本

福岡、

△保險種類、利益配當附普通養老、同遞減養老、同有限拂込終身、同尋常終身、

保險・銀行・信託・早解り

太平生命

(東京市麹町區内幸町)

當社は明治四十二年六月の開業、初代社長は中村謙嘉氏、専務楠秀太郎氏が就任したが、其後大正五年楠氏辭して岡本治三郎氏更り六年中村社長辭任して村井貞之助氏が新任した。更に昭和二年のパニツクで望月軍四郎氏の買収する所となり、社長に石井徹氏を専務に塚本明壽氏を迎へたが、昭和六年三轉して根津嘉一郎氏が買収し社長に就任して今日に至つた。然し瀕繁なる當社主權の移動は當社發展の上に尠なからぬ影響を與へてゐる。

昭和八年度の業績を見るに新契高は二千二百二十七萬五千圓で、失効解約二千二十六萬二千圓、純増加僅かに六十一萬二千圓にして年末現在契約一億八百十四萬圓と云ふ有様である。當社が契約高一億圓に達したのは昭和元年末であるから、以來八年間に八百十四萬圓が伸びたに過ぎない勘定となる。これも失効解約が多いためである。次に事業費を見るに収入保険料四百二十九萬一千圓に對し、事業費百七十二萬六千圓、収入保険料百圓當り四十圓二十二錢の割合である。純増加契約高と對照して事業費の効率が疑はれる。當事者

の一考を望む所以である。而して當社八年度末の資産を見ると二千四百三十三萬四千圓で前年よりの増加は九十二萬二千圓である。諸利息収入百十七萬七千圓で平均資産利廻五分二厘三毛、平均運用利廻五分四厘九毛は資産利廻としては低い方である。八年度の總利益金は二十九萬八千圓、内契約者配當準備金に二萬八千圓を繰入れ、差引利益金二十七萬圓を計上、更に其の内二十二萬七千圓を契約者配當準備金に處分し、株主配當一萬五千圓(年六分)を行つた。年度末の諸準備金は二千二百六十四萬九千圓である。

△創立明治四十二年三月、

△資本金百萬圓(二千株、二十五萬圓拂込)

△現重役、社長根津嘉一郎、専務吉田義輝、取締役、小林中、小笠原長幹、加藤正道、
監査役森平兵衛、石井徹、

△支社所在地、東京、大阪、名古屋、京都、廣島、福岡、仙臺、秋田、新潟、金澤、高松、熊本、臺北、札幌、京城、

△保險種類、利益配當附養老保險。

保險・銀行・信託・早解り

福德生命

(大阪市北區堂島濱通り)

當社は明治四十五年五月の創立で同胞生命と稱し、小林富次郎、吉村鐵之助氏等の後援で開業したが不振三年、神戸川崎、松方氏に買はれて本社を大阪に移轉、福德と改稱した。斯くて社長に松方正雄氏、専務に有村丈太郎氏就任して順調なる發展を辿つて來たが、曩に日華生命の川崎家に依つて買收され日華生命から齋藤眞平氏重役として入社し咲花一二三氏が營業部長として重役に昇格した。斯くて順調なる業績を辿り今日に至つてゐる。當社は何れ日華生命に合併される運命にあるが、其の内容は割合にガツチリしてゐる。昭和八年度の業績を見ると新契約二千二百二十三萬圓で、失効解約が一千九百九十五萬三千圓であつて、純増加は二十三萬七千圓、年末契約一億三百三十八萬二千圓を擁してゐる。失効解約が割合に多く従つて伸びが悪くなつて來たが、資産内容は良好である。八年度の事業費は収入保険料六百二十一萬五千圓、事業費百六十萬九千圓で、収入保険料百圓當り二十五圓九十一錢であるから中堅會社としては至極良好な成績である。當社同級の會社の事

業費と比較すると約半分に過ぎず、經營の合理化が窺はれる。八年度末の總資産は二千八百七十三萬六千圓で、前年より百三十八萬九千圓増加した。諸利息収入は百六十一萬九千圓、平均資産利廻六分六毛、平均運用利廻六分一厘九毛で資産利廻は頗る良好、内容の好績を物語つてゐる。八年度の差引利益金は二十二萬五千圓、内十七萬九千圓を契約者配當金に繰入れ、株主配當は二萬五千圓(年五分)を行つた。而して契約者勘定に屬す諸準備金は二千七百八萬二千圓を算してゐる。

創立、明治四十五年二月

資本金百萬圓(二萬株五十萬圓拂込)

現重役、社長川崎甲子男、取締役河合良成、佐久間心一郎、咲花一二三、齋藤眞平、監査役高梨博司、菅田英久、

支店支部所在地、東京、大阪、名古屋、福岡、神戸、京都、廣島、札幌、仙臺、京城、金澤、鹿兒島、高知、長野、横濱、和歌山、

△保險種類、利益配當附養老、同特種養老、同利益配當金附養老、同勤儉生存保險、

保險・銀行・信託・早解り

太陽生命

(東京市日本橋區江戸橋)

當社は中京實業家の發企に係はり明治二十五年六月、名古屋生命と稱して名古屋に開業した。鈴木惣衛氏社長に就任したが業績振はず、小栗富次郎氏社長となつて本社を名古屋より東京に移し、社名を太陽生命と改めた爾來幾度か社長更替して頽勢の挽回に力めたるも其の効なく遂に四十四年現社長西脇濟三郎氏一族の買收する所となり、専務に清水文之輔氏就任して今日に及んでゐる。内容は良好であるが伸展の遅々たる點では驚くの外はない。

昭和八年度の業績を見ると新契約は二千三百二十六萬七千圓で、失効解約は一千二百九十四萬六千圓、八百八十一萬八千圓の純増加を見て年末現在契約高は一億三百十五萬五千圓を算するに至つた。中數契約に對する新契約率は二割三分五厘六毛、失効解約率一割三分一厘で無理のない順調な成績である。八年度の収入保険料四百三十五萬九千圓、事業費百五十四萬八千圓で、収入保険料百圓に對する事業費は三十五圓五十錢である。高くはない

が決して安い事業費とは云はれない。次に八年度末の資産を見ると二千七百七十七萬二千圓に達し、前年より百四十五萬五千圓を増加した。而して八年度の諸利息収入は百四十七萬五千圓、平均資産利廻五分七厘六毛、平均運用利廻五分八厘九毛で資産利廻は良好であり、資産運用の好調を示してゐる。八年度の總利益金は八十二萬四千圓内一萬六千圓を契約者配當準備金に繰入れ差引利益金八十萬七千圓を計上内更に五十四萬圓契約者利益配當準備金に分配し、株主配當は九萬七千五百圓(年三割)を行つた。而して契約者勘定に屬する諸準備金は二千五百五萬圓九千圓に達してゐる。

資本金百萬圓(二萬株卅二萬五千圓拂込)

現重役、社長西脇濟三郎、専務清水文之輔、取締役西脇健治、洲戶吉漸、難波誠四郎、監査役島貢介、伴野乙彌、

△支店所在地、大阪、名古屋、仙臺、福岡、京都、廣島、金澤、札幌、京城、青森、高松
△保險種類、利益配當附終身、同養老、同愛兒保險、同富貴養老、利益配當無養老終身

大正生命

(東京市麹町區有樂町)

當社は大正二年四月の創立、資本金は五十萬圓、社長には當初柳原義光伯就任し、専務に岡烈氏當つたが、後金光庸夫氏襲任し、鈴木系並に貿易業者を地盤として業績著しく好調を辿つた。然るに鈴木商店の没落から其の關係を懸念され尠なからぬ影響を蒙るに至り一時川崎家の支配下に置かれてゐたが、昭和八年金光氏社長に就任して川崎の手を離れ、専ら内容刷新に努力し今日に至つてゐる。

當社八年度の業績を見るに、新契約は一千四十萬二千圓にして、失効解約は一千八百三十六萬圓、結局六百二十一萬四千圓の契約減少を見て年末現在契約は六千四十一萬五千圓となつたのである。契約成績は近時大分見直して來たとは云へ、失効解約が新契約を超過する様では問題にならぬ。失効解約の防止に先づ努力するが肝要である。次に八年度の收入保険料は二百三十一萬四千圓、事業費は百十四萬五千圓で、收入保険料百圓に對して四十九圓四十六錢を費つてゐる。如何に積極的な經營とは云へこの事業費は餘りに高きに

失する。もつと募集の合理化を圖り、經費の節約に努めねばならぬ。八年度末の資産は一千七百七十九萬二千圓、諸利息収入は九十八萬四千圓で、平均資産利廻は五分六厘六毛、平均運用利廻五分八厘八毛は資産利廻として好利廻と云はなければならぬ。低金利の折柄資産利廻が前年より向上した所を見ると資産内容は餘程改善されて來た、これは契約者のために喜ぶべき現象である。八年度の利益金は七萬圓で、内二萬五千圓を契約者利益配當準備金に繰入れ、株主配當は二萬五千圓(年五分)を行つたが、契約者勘定に屬する諸準備金は一千六百九十五萬七千圓を算した。

△創立、大正二年四月

△資本金五十萬圓(一萬株全額拂込濟)

△現重役、社長金光庸夫、取締役田村周藏、磯田正朝、植村俊平、監査役鈴木岩治郎

△支社所在地、東京、大阪、名古屋、仙臺、京城、京都、廣島、福岡、札幌、臺北

△保險種類、利益配當附普通終身、祝壽養老金附終身、確定配當金附養老、生存分配金附養老、利益配當附普通養老

保險・銀行・信託・早解り

常磐生命

(東京市麹町區有樂町)

當社は大正二年三月資本金五十萬圓を以つて開業したる新設會社である。當初社長は大谷嘉兵衛氏専務は關本氏であつたが、大谷氏没後關本氏襲ふて今日に至つた。當社は最近資産の運用と契約の募集とに營業課長蓮沼大三氏が新方針を斷行し業績は漸次立直らんとしてゐる。ために當社は一時契約の停頓を見たが、外務員を一人も使用せぬ代理店中心主義即ち契約者中心主義の募集陣が完備するに至れば其の面目を如實に發揮するであらう。尙ほ當社で募集してゐる福兒保險は他社のものに比して保険料も安く解約返還金も多くなり約款も寛大であり、着々業績をあげつつある。

昭和八年度の業績を見ると、新契約は六百七十五萬四千圓、失効解約は六百五十八萬六千圓で、結局百七十六萬五千圓の契約を減少して年末契約は五千三百五十萬八千圓となつたが前年より解約率は低下して新契約率の向上を示し改善の跡顯著なるものがある。次に収入保険料は二百六十四萬二千圓、事業費九十八萬一千圓で、収入保険料百圓當り事業費

は三十七圓十五錢で事業費は高い方ではない。八年度末の資産は一千八百七十四萬九千圓、諸利息収入八十三萬五千圓で、平均資産利廻は四分七厘七毛、平均運用利廻は五分一厘二毛であるが資産利廻の低いのは遺憾であり、資産内容の改善は一層必要と見られる八年度總利益金は十二萬八千圓、内一萬一千餘圓を契約者配當準備金に繰入れ差引利益金十一萬六千圓を計上、内更に八萬圓を契約者配當準備金に分配、株主配當一萬二千五百圓(年五分)を行つた。尙ほ契約者勘定に屬する諸準備金は一千七百四十四萬一千圓となつた

△創立、大正二年一月

△資本金百萬圓(二萬株、二十五萬圓拂込)

△現重役、社長關本英作、取締役吉田榮右、市川誠次、井上辰九郎、大谷嘉一、監査役相澤喜兵衛、矢島榮助、渡邊義郎、

△支社支部所在地、東京、名古屋、福岡、金澤、秋田、臺北、奉天、大阪、岡山、京都、仙臺、札幌、釜山、

△保險種類、利益配當附甲種養老、同乙種養老、同特種養老、同福兒保險

保儲・銀行・信託・早解り

横濱生命

(東京市日本橋區江戸橋)

當社は明治四十年三月の開業、横濱の知名實業家の發企に係り、資本金は百萬圓、初代社長は小野光景氏、専務は大濱忠三郎氏が就任した。然し社運は兎角振はず、昭和二年北海道の富豪板谷宮吉氏の買収する所となり、更に鈴木寅彦氏を経て現社長山中勇氏の買収する所となつた。由來其の内容香ばしからず最近平島敏夫氏を常務に迎へ内容の刷新に努力しつつある。

今八年度の業績を見ると七年度より幾分改善の跡を辿つた。即ち新契約は九百二十五萬八千圓で、年始年末中數契約に對する新契約率一割八分四毛、失効解約は九百八十二萬六千圓で中數契約に對する失効解約率一割九分一厘五毛に當る。而して新契約率は前年の二割九厘二毛より稍々鈍つたが、失効解約率は前年の二割九分二厘九毛より餘程改善された斯くて年末現在契約は二百十六萬九千圓を落して五千二十二萬三千圓となつたのである。事業費は収入保険料二百八萬圓、事業費百一萬四千圓で収入保険料百圓當り四十八圓八十

錢、前年の五十圓十六錢より一圓三十六錢方改善されたが未だ高く高い。次に八年度末の資産は一千四百四十四萬九千圓、諸利息収入は七十萬九千圓で、平均資産利廻は五分一厘六毛、平均運用利廻は五分五厘二毛を得たが、資産利廻も良い方ではない。八年度の利益金は八萬四千圓を擧げた。而して其の内五萬圓を契約者利益配當準備金に繰入れ、株主配當はこれを無配として残額を社内に保留したのである。因に八年度末の責任準備金は一千百七十六萬九千圓、生存分配準備金は八十一萬九千圓、保險契約利益配當準備金は十八萬五千圓、支拂備金は三十九萬九千圓である。

○資本金百萬圓(二萬株、二十五萬圓拂込)

△現重役 社長山中勇、常務平島敏夫、同安藤信昭、取締役早川芳太郎、原田耕三、監査役寺田四郎、龜山定登、

△支店所在地、東京、横濱、神戸、大阪、京都、名古屋、金澤、新潟、仙臺、福岡、廣島、京城、小樽

△保險種類、利益配當附終身保險、同生存分配金附養老保險、同普通養老保險、

保險・銀行・信託 早解り

福壽生命

(名古屋市中區南大津町)

當社は明治四十一年名古屋生命にわた近藤徳治郎氏が中京の富豪神野金之助、富田重助の諸氏を説き、資本金五十萬圓をもつて名古屋に設立したものである。後資本を百萬圓に増資し、初代社長神野氏の物故と同時に富田氏が就任したが、富田氏の没後神野金之助氏社長に就任して今日に及んでゐる。當社の業態は何れかと云へば可もなく不可もなしと云つた順調の経過を辿つてゐるに過ぎない。即ち資産も少く、契約高も低く、信用も小さいので自然大會社に壓迫され伸び悩みと云つた感があるが、内容は相當に堅實である。

昭和八年度の業績を見ると新契約は七百七十三萬二千圓で相當な伸力を示し、失効解約も四百六十二萬五千圓と大部改善され、純増加二百四十八萬三千圓を加へて年末現在契約四千三百二十七萬四千圓に達したことは、當社としては著しき進歩である。尙ほ事業費は収入保険料二百三十三萬九千圓、事業費六十一萬三千圓で、収入保険料百圓當り二十六圓二十四錢を費つてゐるに過ぎぬ。先づ以て至極良好な成績と云へるであらう。次に當社八年

末の資産は一千四百四十一萬三千圓で僅かながら四萬五千圓を増加した。而して諸利息収入は七十三萬七千圓、この平均資産利廻は五分五厘六毛、平均運用利廻は五分七厘四毛であるから、相當な業績である。會社は小さいが資産内容は相當ガツチリして居り、難のない業績と言つてよい。八年度の利益金は十七萬六千圓、内保険契約者分配準備金に十萬圓を繰入れ、株主配當二萬圓(年八分)を行つた。尙ほ年度末の責任準備金は一千二百六十八萬八千圓、支拂備金は四萬三千圓を算した。

△創立 明治四十一年八月

△資本金百萬圓(二萬株、二十五萬圓拂込)

△現重役、社長神野金之助、取締役伊藤次郎左衛門、岡谷惣助、渡邊喜兵衛、井坂孝、青木鎌太郎、岡本櫻、同支配人寺木喜三次、監査役春日井丈右衛門、豊田利三郎、富田重郎、伊藤傳七、

△支部所在地、東京、大阪、福岡、京都、岡島、金澤、小樽、仙臺、

△保険種類、利益配當附終身、同養老、同増額養老、同永壽保險、

保險・銀行・信託・早解り

日本共立生命

(京都市平安神宮通慶流橋南)

當社は明治二十七年四月岡山相互會社と稱して岡山市に設立、三十八年本社を京都に移し下村忠三郎氏の經營となり、同四十年日本共立と改稱し、四十五年藤井善助氏社長に就任同時に従來の十萬圓の合資組織を二十萬圓に増資し、更に大正二年九月百萬圓に増資して組織を株式組織に改めた。斯くて其後又資本金を二百萬圓に増資し、藤井氏辭任後は前川太郎兵衛氏社長に就任して今日に至つた。其の間當社は幾度か社長の更替を見發展を阻害され、遂に伸び悩みの状態に陥つてゐる。昭和八年度の業績を見ると、新契約は僅かに五百二十五萬三千圓、失効解約は三百四十六萬三千圓で、純増加僅かに九十二萬三千圓、年末現在契約四千二百七十八萬八千圓である。これが生保會社創立順第七位にある會社の契約高かと思へばなさない状態と申なければならぬ。而して八年度の事業費は四十九萬六千圓、収入保険料は百六十一萬一千圓であるから、収入保険料百圓に對する割合は三十一圓四錢となる。必ずしも高いとは云はぬが、百萬圓足らずの純増加契約を得るために約五十萬

圓の事業費を費した點を考慮する問題にならない。而して八年度末の資産を見ると一千四百十萬二千圓で、諸利息収入は六十五萬九千圓、平均資産利廻五分四厘九毛、平均運用利廻五分七厘二毛を収めた。斯くて八年度の總利益金二十五萬一千圓を擧げ、内九萬三千圓を契約者配當準備金に繰入れ、差引利益金十五萬八千圓を計上し、内更に十萬七千圓を特別利益配當附保險契約滿期配當基金に處分し、株主配當は三萬圓(年六分)を行つたのである。而して契約者勘定に屬する諸準備金は一千百六十七萬七千圓に達してゐる。

△創立 明治二十七年四月

△資本金二百萬圓(四萬株、五十萬圓拂込)

△現重役、社長前川太郎兵衛、常務前川彌助、同前川道平、取締役藤井廣太郎、成宮季一、岡部義路、本多長利、監査役前川幸藏、前田春雄、

△支店所在地、東京、名古屋、金澤、仙臺、大阪、福岡、京都、

△保險種類、利益配當附終身、同養老、利益配無終身、同養老、

富士生命 (東京市丸ノ内)

當社の創業は明治四十二年三月で、初代社長は陸軍中將矢吹秀一氏、次いで海軍中將梨羽時起氏、男爵坂井重季氏、宇都宮金之丞氏を経て大正十三年大阪藤田組の手に移り、藤田平太郎男を社長に寺田四郎氏専務に就任して本社を大阪に移轉し經營に努力したが、後岩田三平氏の買収する所となり、放漫經營を續けた結果、會社は没落に瀕するに至つた。斯くて岩田氏の後を襲ふて矢吹省三氏社長に就任し河野九峰氏を常務として社業の挽回に努めてゐるが業績は年々降り坂である。

八年度の業績を見るに、新契約は七百三十五萬一千圓に過ぎず、失効解約は六百三十八萬六千圓を算して、純増加僅々十一萬二千圓年末現在契約三千五百二十萬二千圓と云ふ心細さである。一人歩きは困難な状態だ。八年度の収入保険料百五十萬六千圓なるに對して事業費は七十二萬四千圓、収入保険料百圓當り四十八圓十四錢と云ふ高率な事業費を費してゐる。尠なからぬ濫費である。次に年度末の資産は一千十四萬九千圓である。而して諸

利息収入は僅かに三十七萬圓、平均資産利廻三分八厘一毛、平均運用利廻四分一厘二毛で全く話にならぬ資産利廻である。これに依つて見るも當社の資産は尠なからぬ不良資産を介在せしめてゐる。未收利息十萬二千圓は貸付金の不良貸を物語つて居り、有價證券中の株式にもカラクリがある筈である。之を要するに當社の更生は望み難いと云はねばならぬ八年度の利益金は三萬二千圓、責任準備金は八百四十七萬四千圓、生存分配資金準備金は六十七萬三千圓、特別危険積立金八萬六千圓支拂備金は二十五萬圓である。

△創立、明治四十二年三月

△資本金五十萬圓 (五千株、十二萬五千圓拂込)

△現重役、社長矢吹省三、常務河野九峰、取締役、加藤守一、嘉納文治、監査役楠外喜雄、根岸泰介、

△支部所在地、東京、大阪、名古屋、仙臺、富山、長野、平壤、鹿兒島、京都、廣島、札幌、福岡、松江、秋田、山形、

△保險種類、利益配當附終身、同普通養老、同滿期養老、同累加養老、

保險・銀行・信託・早解り

日本教育信託

(東京市麹町區有樂町)

當社は明治二十九年九月の創立であるから其の歴史は相當に古いが、其の發展は遅々と
して振はない。創業以來既に三十八年を経過してゐるにも拘はらず、昭和八年度末の契約
高一千十八萬一千圓と云ふ心細さである。八年度の業績に就て見ると、新契約は二百九十
萬二千圓と云ふ貧弱さであり、加ふるに死亡及失効解約が二百七十五萬二千圓にも達して
居り、新契約の九割四分八厘が死亡及失効解約となつて失はれて行く勘定になる。而して
満期は四十三萬二千圓、保險金額の減少一萬四千圓、其他の増加は四十五萬八千圓を示し
八年度の純増加僅かに十六萬一千圓と云ふ状態である。こんな事では到底一本立ちでは立
ち行かない。やがては契約高は漸減して自滅の道を辿るの外はないであらう。

八年度の事業費に就て見るも、収入保険料三十七萬六千圓に對し事業費は十八萬七千圓
収入保険料百圓當りの事業費四十九圓七十三錢と云ふ驚くべき高率である。事業費の濫費
眞に著しと云ふべきである。

更に八年度末の總資産は三百九十八萬三千圓、内運用資産は三百七十一萬六千圓で其の
六割四分に當る二百三十七萬八千圓を有價證券に投資し、一割一分四厘の四十二萬二千圓
を貸付金に、二割四分六厘、九十一萬四千圓を預貯金に運用して、諸利息收入二十二萬八
千圓を收めてゐるが、この平均資産利廻は六分三厘四毛、平均運用利廻は六分四厘三毛で
相當の高率を示した。蓋しこれは有價證券の値上り益が其の過半を占めてゐる、而して八
年度の利益金一萬三千圓を計上、内一千圓を法定準備金に、六千圓(年八分)を株主に配
當し、六千餘圓を後期繰越金として處分した。

△創立、明治二十九年九月

△資本金三十萬圓(六千株、七萬五千圓拂込)

△現重役、社長金光庸夫、取締役田村周藏、國友通勝、監査役鈴木岩治郎、海保貞亮、

△支店所在地、東京、大阪、名古屋、仙臺、京城、京都、廣島、福岡、札幌、臺北、

△保險種類、教育結婚資保險、

第一 徵兵

(東京市京橋區銀座)

當社は本邦に於ける徵兵保險會社の元祖である。元來本邦の保險事業は全部歐米先進國の模倣であるが、この徵兵保險だけは獨創的起源を有つてゐる。明治三十一年二月偶々滋賀縣人寺林富榮、成田文吉氏等徵兵保險の計劃を樹て東京の實業家岡田治衛武氏に相談した結果、生存保險と結合して長期契約の方法を採用する事とし創立を見たのが當社である。爾後當社に倣つて徵兵保險を試みるもの兼營する者續出したるも、多くは驥足を伸ぶる能はずして失脚し、獨り當社が繁榮を續けた。創立後は岡田治衛武氏、川村隆實氏等經營に當つたが、日本赤十字社の創立者で、久しく副社長の椅子にあつた陸軍中將小澤武雄男を總裁に迎へ、現社長太田清藏氏が明治四十二年以來專務として先人未開の地を拓くべく努力して來た。日露戰爭を機とし尙兵思想の勃興、保險金受取の實例等より當社の事業も漸次社會の理解する所となり、理解は信頼を生み、社運進展を見るに至つた。其後小澤男爵後は太田清藏氏社長に就任し、持株も重役も殆んど太田氏の一族郎黨の手に收められ、基

礎も頗る鞏固となつた。

今當社八年度の業績を見ると、新契約は一億一千八百八十四萬七千圓の巨額に達し、失効解約は六千六百八十八萬四千圓で、純増加七千一百萬九千圓を加へて、年末現在契約高は遂に四億一千七百八十三萬九千圓の巨額に達するに至つた。年始年末中數契約に對する新契約率は二割九分二厘五毛、失効解約率は一割七分四厘九毛、純増加率實に一割八分五厘七毛を示す進歩的な成績である。

次に事業費を見ると、収入保険料一千百十萬一千圓に對して、事業費は四百八十七萬三千圓を費してゐる。故に収入保険料百圓當りでは四十三圓八十六錢の割合となる。この事業費は當社として聊か高率なるを免れぬ。經營を合理化し、募集を合理化して今少し事業の節約を圖ることが肝要であらう。

而して當社の八年度末總資産は實に一億六百七十七萬五千圓に達し前年より九百三十九萬七千圓を増加した。内正味資産は一億五百十二萬五千圓、運用資産は一億三百二十二萬三千圓である。この正味資産に對する運用率は九割九分一厘、運用資産の比率は總額の二

割七厘二千五十四萬七千圓を預貯金に、九割五分九厘、五千八百三十萬六千圓を有價證券に、一割三分八厘、一千四百三十八萬三千圓を貸付金に、九分六厘、九百九十八萬五千圓を不動産に運用してゐる。而して諸利息收入五百五萬一千圓で、資産利廻五分一厘六毛平均運用利廻五分二厘二毛を収めた。當社利廻としては聊か低く資産運用改善の必要が認識される。敢て經營者の一考を望んで置かう。斯くて當社は八年度に於て差引利益金五十六萬一千圓を計上、内十八萬五千圓を保險契約利益配當準備金に繰入れ、五萬九千八百圓を株主に配當し、他を内部に保留したのである。而して本度末の責任準備金は九千九百五十九萬九千圓特別危險準備金は七十三萬二千圓、支拂準備金は百四十六萬三千圓、保險契約利益配當(増加充當)準備金は二十八萬一千圓其他準備金二十一萬一千圓を算するに至つた

△現重役、社長太田清藏、常務太田新吉、取締役青木岩治、西原連三、太田辨次郎、土岐定應、監査役武末祐三郎、太田圭助、住野良三、

△支店所在地、東京、大阪、名古屋、福岡、金澤、仙臺、廣島、札幌、京城、高松、宇都宮、京都、鹿兒島、△保險種類、利益配當附徴兵、同生存、同戰友共濟、同護國養老、

富國徴兵

(東京市麹町區内幸町)

當社は大正十二年九月、根津嘉一郎、若尾璋八氏等七十餘名の發起及贊助を得て創立せられたもので、現在生命保險會社中最も年齢若く、而かも相互組織を探れる徴兵保險會社として最初のものである。社長に根津嘉一郎氏、常務には嘗て第一徴兵にありて取締役或は顧問となり斯業に經驗深き伊豆凡夫氏を初め吉田義輝氏が就任した。斯くて創業未だ日尙ほ淺きにも拘はらず、異常な伸展を遂げ、創業滿十年にして、契約高三億を突破した。

即ち昭和八年度の業績を見るに、新契約は一億七百三十五萬圓、失効解約は四千五百萬一千圓、死亡及滿期一萬六千圓、保險金額の減少七十一萬六千圓、其他の増加九百十三萬一千圓を算し、差引純増加七千七十四萬八千圓を加へて年末現在契約は三億四百五十萬六千圓に達するに至つたのである。而して年始年末中數契約に對する新契約は三割九分八厘九毛、失効解約率は一割六分七厘二毛、純増加率は二割六分二厘九毛に當る。一流會社として伸力も著しいが失効解約率も少くはない契約實質の嚴選が必要であらう。

次に事業費を見ると収入保険料一千三百四十六萬三千圓に對して、三百九十七萬八千圓の事業費を費つてゐる。即ち収入保険料百圓當り二十九圓五十六錢の割合である。高い方ではないが前年の二十八圓八十八錢に比べると稍々高くなつてゐる。然かも當社収入保険料百圓當りの事業費は年々上向を辿つてゐる無理募集の弊に陥ひざる様注意が肝要であり満期年限の到來期を考慮すべきである。

昭和八年度末に於ける當社の總資産は五千七百四十萬一千圓で、前年より一千百五十八萬七千圓を増加した。而して正味資産は五千五百四十萬一千圓、内運用資産は五千四百三十四萬二千圓である。正味資産に對する運用率は九割七分七厘で稍々低い。又運用資産比率は總額の二割三分二厘、一千二百七十三萬九千圓を預貯金に、三割九分、二千百十四萬二千圓を有價證券に、三割三分六厘、一千八百二十萬五千圓を貸付金に、四分二厘、二百二十五萬六千圓を不動産に運用してゐる。運用割合は先づ妥當であるが、低金利の折柄から銀行預金が多い嫌ひがある。

而して當社は八年度の諸利息収入二百五十三萬二千圓を收入した。この資産利廻は平均資産利廻五分二厘四毛、平均運用利廻五分三厘七毛に當り、好利廻とは言はれない。資産の運用に於て改善を要するものあるを看取されるのである。

斯くて當社は八年度の諸利益金百十二萬一千圓をあげ、四萬六千圓を契約者配當に繰入れ差引剩餘金百七萬四千圓を計上した。内十五萬圓を契約者配當金に、五十萬五千餘圓を契約者配當準備金に振向け、五萬三千圓を役員賞與金に分配し、他を社内に保留して契約者本位の經營を實現したのである。尙ほ契約者勘定に屬する諸準備金は、五千二百五十一萬三千圓を算してゐるが、内契約者配當準備金は百九十七萬一千餘圓に達してゐる。

斯くの如く當社の伸展は素晴らしいものであるが契約獲得の上に無理募集の嫌ひなしとせず、此點は經營者の關心を要する所であらう。

△現重役、社長根津嘉一郎、常務伊豆凡夫、同吉田義輝、取締役稻畑勝太郎、原邦造、生駒重彦、監査役田中四一郎、増田義一、上郎清助、

△支部所在地、東京、大阪、名古屋、福岡、廣島、金澤、仙臺、札幌、京城、

△保險種類、徵兵保險、出世生存保險、

保險・銀行・信託・早解り

日本徴兵

(東京市麹町區山下町)

當社は徴兵による經濟的打撃を緩和するの目的を以つて、武智直道、北川禮彌其他數氏が發起人となり、明治四十四年九月資本金五十萬圓を以て創立され、門野幾之進氏初代の社長に就任した。而して當社の創業は保險思想を普及せられてゐた時代であるから、事業は頗る順調に發展し、更に生存保險開始と共に一層事業の進展を遂げた。而して歳を重ねると共に契約高は累進増加したのである。斯くて大正六年門野氏辭任と共に室田美文氏社長に就任し、爾來財界の好況に順應すべく七年五月資本金を百萬圓に増資し、更に十年八月二百五十萬圓に増資した。大正九年の財界反動や大正十二年の關東大震災にも當社は何等損害を蒙らず、契約も増加の一路を辿り、昭和八年度末の契約高は一億五千八百四十一萬圓に達する好成绩を示してゐるが、これ一つに當社重役の善處に依るものである。

今當社八年度の業績を見るに、新契約は三千七百九十六萬六千圓、失効解約は三千二百三十萬四千圓にして、死亡及満期は八十萬七千圓、保險金額の減少三十四萬九千圓、其他

の増加八百九十一萬七千圓で、純増加一千三百四十二萬一千圓を加へ、年末現在契約は一億五千八百四萬一千圓に達した。年始年末中數契約に對する新契約率は二割五分九毛で順當な伸力であるが、失効解約率二割一分三厘五毛は前年より改善さるも尙ほ稍々多い。純増加率八分八厘七毛は前年の五分一毛に比し遙かに好調で、總じて契約成績は良好である。八年度の事業費は收入保險料五百九十一萬三千圓に對し百九十二萬圓を要した。即ち收入保險料百圓當り三十二圓四十九錢の割合である。高くもないが安い方でもない。然し前年の三十六圓四十七錢より餘程改善され努力の跡が窺はれる。

次に八年度末の總資産は四千五百八萬五千圓で前年より三百八十四萬三千圓を増加した。而して内運用資産は四千三百八十萬二千圓を占め、正味資産に對する運用率は九割七分二厘に當る。更に運用資産の比率を見るに。總額の一割一分三厘、四百九十五萬五千圓を預貯金に、四割九分五厘、二千六百六十六萬二千圓を有價證券に、二割七分七厘、一千二百二十二萬三千圓を貸付金に、一割一分六厘、五百六萬二千圓を不動産に運用してゐる。而して當年度の増加資産はこれを有價證券に振向けられ、資産運用の主力を有價證券に置いてゐる。

るが總じて其の割合は適切である。八年度の諸利息収入は二百九十一萬圓で、平均資産利廻七分三毛、平均運用利廻は七分二厘二毛を收め著しき好利廻を得てゐる。これは斯界筆頭の高利廻であり、以つて資産内容の堅實と運用の安全確實なるを看取するに足るであらう。従つて當社は八年度に於て總利益金百九萬五千圓に達し、内二萬九千圓を契約者配當に繰入れ、差引利益金百六萬五千圓を計上、而して内四十二萬圓を契約者配當金に處分し四十萬六千餘圓を株主に配當する好成績を收めた。當社は量より質に於てガツチリした優良會社である。尙ほ年度末の責任準備金は三千六百七十八萬四千圓、特別責任準備金十三萬五千圓、支拂備金は百七十八萬圓、契約者配當未済金二萬二千圓である。

△資本金二百五十萬圓（五萬株、全額拂込）

△現重役、社長室田義文、専務足立莊、取締役前山久吉、青木正徳、三宮西平、監査役武智直道、鈴木威、益田信世、

△支部所在地、東京、名古屋、福岡、金澤、熊本、大阪、廣島、仙臺、札幌、

△保險種類、利益配當附徴兵、同生存保險、

國華徴兵

（東京市京橋區銀座）

當社の割立は大正十一年七月で新設會社の一つである。川崎家の經營で社長は川崎甲子男氏、専務には高梨慶三氏就任して社運の發展に努力しつつあるが、其の伸力は比較的鈍く、契約高は四徴兵保險會社中の最下位にある。然し國家の非常時に際會し軍事思想の擡頭に報ひられて最近の業績は幾分見直して來た。昭和八年度の業績に就て見るに、新契約は一千九百三十八萬六千圓に達し、年始年末中數契約に對する新契約率三割四分八厘四毛を收め相當の伸力を示したが、失効解約は一千四百二十四萬二千圓と中數契約に對する失効解約率二割五分五厘九毛を示し尙ほ相當に多く、純増加は六百二十三萬一千圓を收めたるに過ぎず、年末現在契約は五千八百七十六萬五千圓に及びたるのみ。幾分改善されたりとは言へ未だく努力を必要とする。

八年度の事業費は收入保險料二百二十七萬七千圓で、事業費八十四萬五千圓、收入保險料百圓當り三十七圓十四錢を費してゐる。事業費は決して安いとは云はれない。尙ほ節約

餘地があらう、次に八年度末の資産は一千百四一十萬八千圓に達し、前年より百七十八萬三千圓の増加を示した。而して當年度の諸利息収入は五十六萬一千圓であるから、平均資産利廻は五分七厘七毛、平均運用利廻五分九厘二毛を収めた譯である。利廻から云ふと比較的好利廻りを収めて居り資産運用も適切で業績は必ずしも悪い方ではない。八年度の利益金は十七萬八千圓をあげた。内七萬八千圓を保險契約者利益配當準備金に繰入れ、約三萬五千圓年七分を株主に配當してゐる斯くて契約者勘定に屬する諸準備金は一千十萬六千圓を擁するに至つた。

△資本金百萬圓（二萬株、五十萬圓拂込）

△現重役、川崎甲子男、専務高梨慶三郎、取締役藤村義苗、菅田英久、藤山愛一郎、川崎大次郎、監査役川崎肇、近藤利兵衛、

△支部所在地、東京、大阪、福岡、廣島、横濱、高松、鹿兒島、名古屋、仙臺、金澤、神戸、長岡、

△保險種類、利益配當附愛育生存、同徴兵、



昭和九年六月十日 印刷
昭和九年六月十日 發行

定價 三 圓

東京市麴町區内幸町一丁目三番地

編輯印刷
兼發行者

大 島 謨

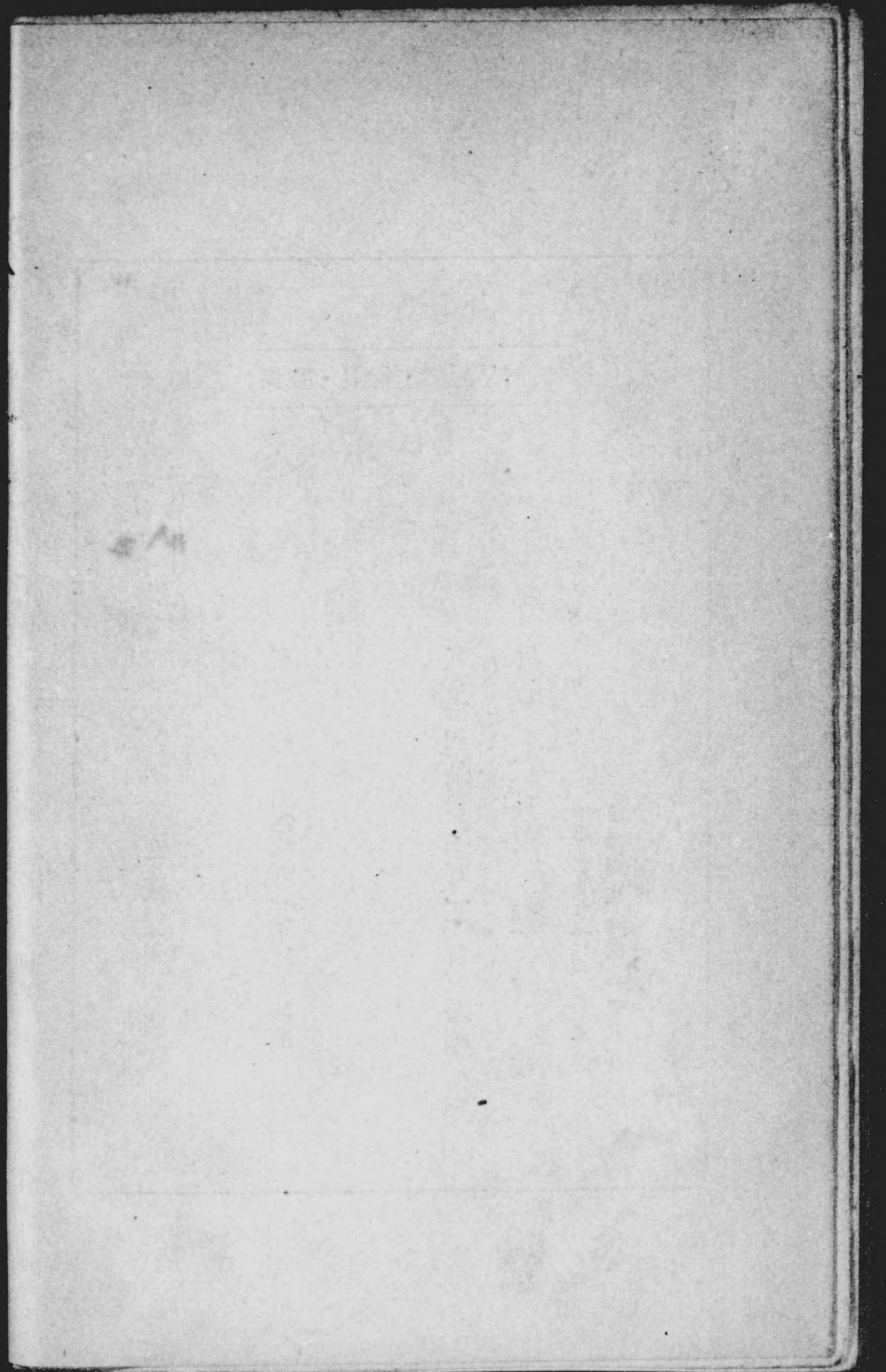
東京市麴町區内幸町一丁目三番地

(幸ビル)

發行所 大 衆 經 濟 社

振替東京 七六八九五番
電話銀座 三三八〇八番

保險・銀行・信託・早解り



660
124

